



NAKATSUGAWA LINEAR GIFU STATION AREA DESIGN BOOK

中津川市リニア岐阜県駅周辺エリア
デザインブック

もくじ

本書について	— 3
--------	-----

第1章 これまでの経緯

1-1 リニア中央新幹線事業概要	— 5
1-2 まちづくり計画	— 6
1-3 リニアを活用したまちづくり	— 7
1-4 広域の交通結節点	— 8
1-5 都市計画	— 9
1-6 かわまちづくり	— 11

第2章 コンセプトと全体計画

2-1 デザインコンセプト	— 13
2-2 施設配置と整備方針	— 17

2-3 動線計画	— 19
2-4 将来の土地利用イメージ	— 21
2-5 岐阜らしさを伝える	— 22

第3章 施設のデザイン

3-1 鳥瞰イメージ	— 27
3-2 自由通路	— 29
3-3 みち広場	— 33
3-4 中央駅前広場	— 35
3-5 北口駅前広場	— 38
3-6 千旦林川親水公園	— 40
3-7 千旦林テラス	— 47
3-8 リニア高架下	— 49
3-9 美乃坂本駅	— 51
3-10 エントランスロード（停車場線）	— 55
3-11 風景をつくるプロダクト	— 57

第4章 ソフトのデザイン

4-1 駅周辺の活動を支える拠点	— 61
4-2 今後の取り組み	— 62

本書について

本デザインブックは、中津川市リニア岐阜県駅周辺デザイン会議や学識者との検討会などの議論を経て、中津川市が作成したリニア岐阜県駅周辺エリアデザインの基本的な指針です。

今後、中津川市では、リニア岐阜県駅周辺整備の具体化に際して、本書のデザインコンセプトや整備の方針に沿って、関係機関と協議・調整を行いながら進めていきます。

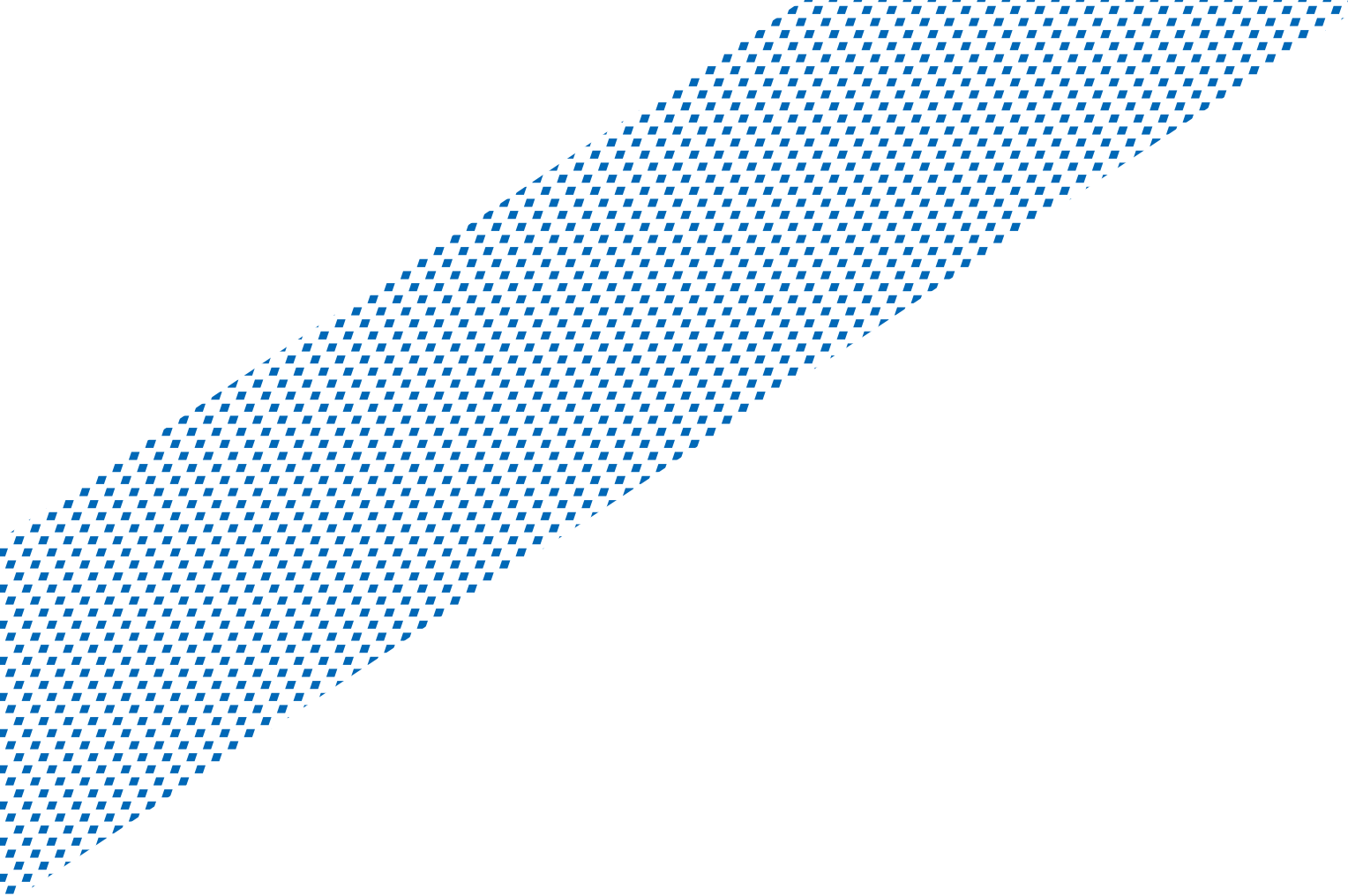
地域住民・行政・事業者など本事業に関わる全ての人々が将来の姿を共有することで、リニア岐阜県駅周辺が魅力的な空間となることを目指します。

※本書に記載されている名称や計画内容は2022年（令和4年）3月時点の情報を元にしており、計画内容や名称などについては変更する可能性があります。

※本書に掲載されているリニア高架橋本体や美乃坂本駅、周辺施設などはイメージであり、今後の検討によって変更になる可能性があります。また、JR設備およびそれを保護するフェンスなどについては、現在協議中です。

※本書における「リニア岐阜県駅周辺エリア」とは、リニア岐阜県駅の、駅前広場・千旦林川親水公園を含む整備区域を示すものとします。

※本書における「駅前広場」とは、リニア岐阜県駅前において中津川市が整備する広場を指します。



1

これまでの経緯

1-1 リニア中央新幹線事業概要

リニア中央新幹線は、2027年（令和9年）に東京―名古屋間が先行開業し、さらにその18年後の2045年（令和27年）に東京―大阪間の全線が開業する予定です。東京―名古屋間のルートは、品川駅を起点とし、名古屋駅付近に至る全長約286kmです。中津川市内では、トンネルで恵那山の北側を抜けて山口地区に入り、苗木地区、中津西地区、坂本地区を経て、恵那市に至るルートになります。また、中津川市内

には、坂本地区に岐阜県駅（仮称）と中部総合車両基地が設置されます。

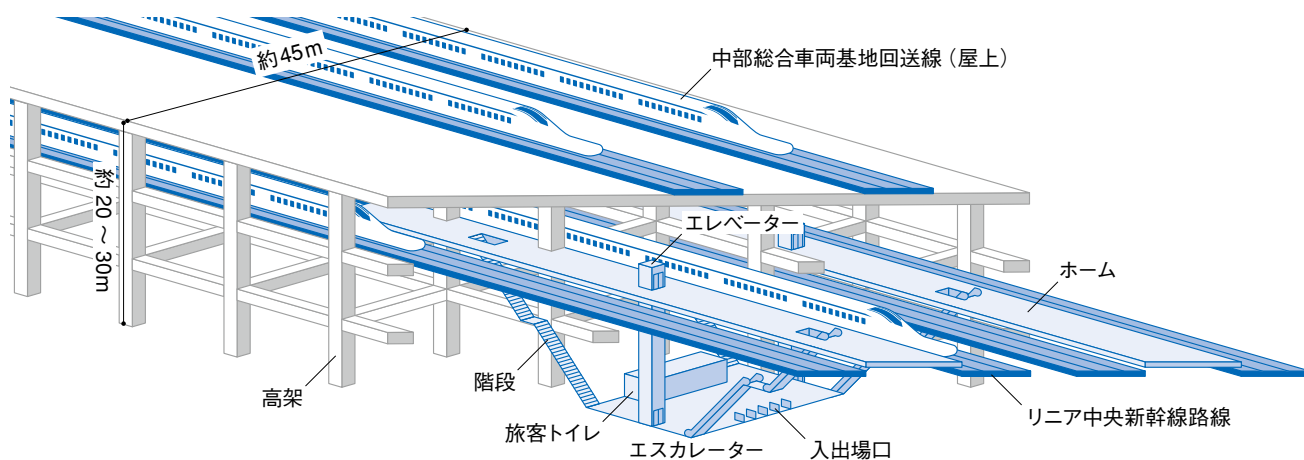
リニア中央新幹線により、中津川―東京間の所要時間は約58分（約1時間40分短縮）、中津川―名古屋間は約13分（約40分短縮）と大幅に短縮されます。



リニア中央新幹線ルート計画概略図（2013年（平成25年）時点）

※「岐阜県駅（仮称）」については、以降「リニア岐阜県駅」とします。

リニア岐阜県駅は、約20～30mの高さの高架駅となり、中部総合車両基地への回送線が屋上に配置されます。延長は約1.3kmで、駅中央の地上部に入出場口が配置される予定です。リニア中央新幹線は、全席指定席となる予定です、事前に予約するシステムとなり、駅には、きっぷを販売するスペースは設けられない予定となっています。



駅の高架とホームの計画概略図

1-2 まちづくり計画



中津川市では、2013年（平成25年）8月に策定された「中津川市リニアのまちづくりビジョン」において、目標年次を2050年とした長期的なビジョンを描くことにはじまり、リニアを迎えつつまちの資源や暮らしの充実を図る戦略、施策を実現するための計画を段階的に進めてきました。

その後、岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会において「岐阜県リニア中央新幹線活用戦略」が策定され、同基盤整備部会にて「リニア岐阜県駅周辺整備基本計画」「リニア岐阜県駅周辺整備概略設計」が策定されました、これらにより、リニア岐阜県駅周辺整備に係る機能や役割が整理・具体化されました。

中津川市においては、リニア開業を見据え計画が具体化していく中、特に重点をおいて取り組むべき課題を抽出し、事業を本格化するための方針を「中津川市リニアを活用したまちづくり構想」として2019年（令和元年）に策定しました。

1-3 リニアを活用したまちづくり

———2019年（令和元年）7月「中津川市リニアを活用したまちづくり構想」より

岐阜県の新しい東の玄関口

「中津川市リニアを活用したまちづくり構想」では、リニアのまちづくりビジョン実現に向けて特に重点的に取り組むべき課題となる、①リニア駅周辺のまちづくり、②中心市街地の活性化、③市域全体の観光振興 についての施策をまとめています。

リニア駅周辺は「岐阜県の東の玄関口」と位置づけられ、多くの来訪者がリニア岐阜県駅から市街地、市内・県内各地へと訪れ、「清流の国ぎふ」を十分満喫してもらうことを目的とし、広域の交通結節点としての機能整備と、地域資源の魅力向上と広域連携・周遊性の確保に取り組むという構想をまとめました。

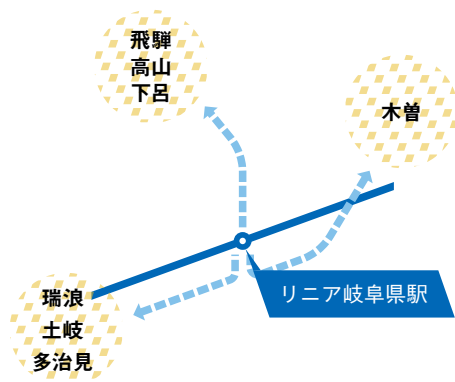
本構想に基づき、それぞれの課題に取り組みながら、リニアを活用したまちづくりを推進します。



1-4 広域の交通結節点

地域資源の連携と周遊のために

リニア岐阜県駅を起点として、県内各地や近隣県への広域幹線道路となる中央自動車道や濃飛横断自動車道、国道19号、国道257号などの既存道路とのネットワーク形成、中津川市と恵那市を結ぶ東濃東部都市間連絡道路などの整備を進めます。また、リニア岐阜県駅周辺ではリニアと在来線の乗り継ぎ利便性の確保、駐車場整理、高速バス・路線バス、タクシー・レンタカーサービスなどの機能充実を図り、産業、観光などの面において、市町村、圏域、県域を越えた広域的な交通結節点として、新たな交流拠点の整備を図ります。

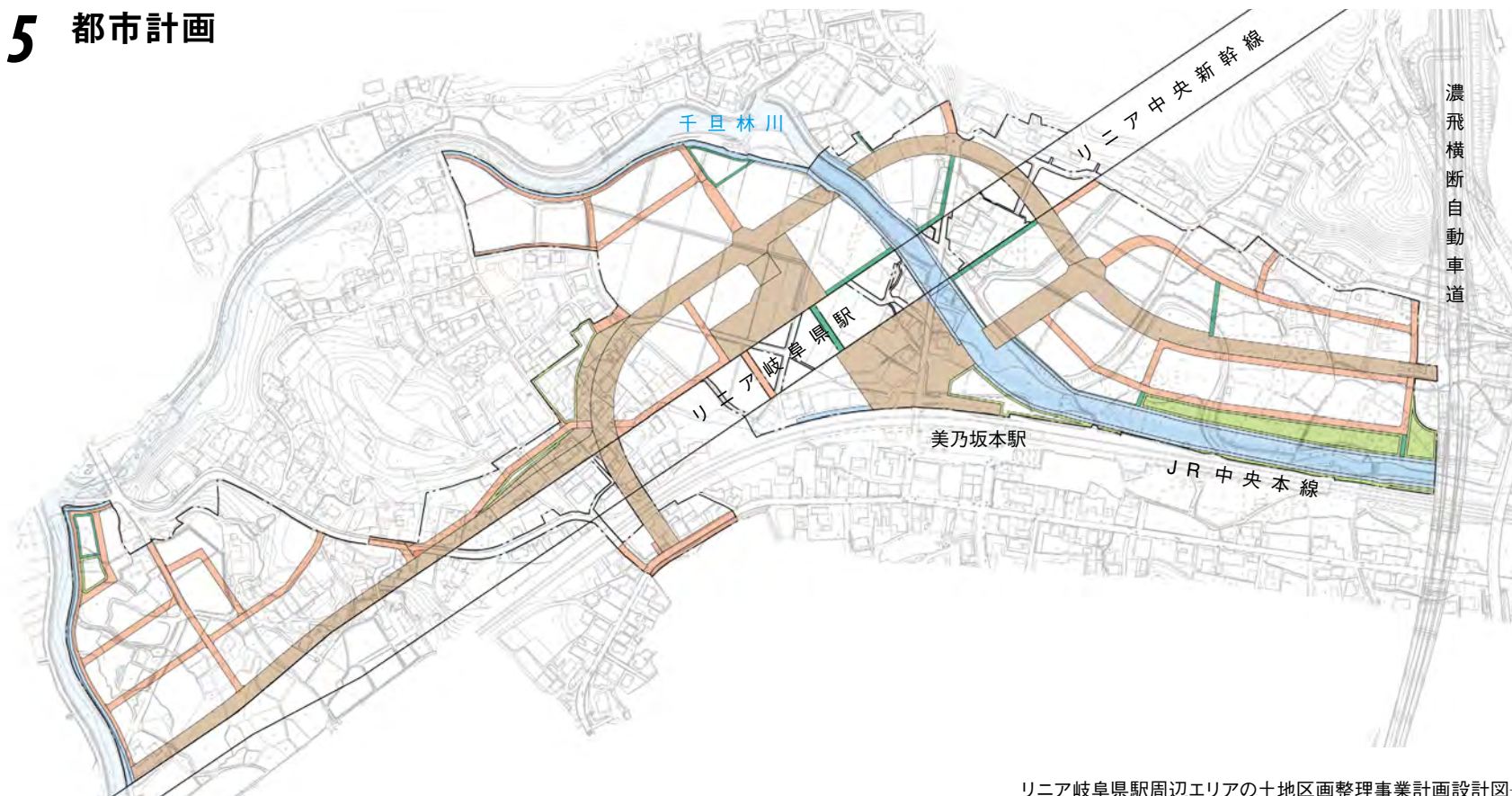


リニア岐阜県駅と各地域の連携 概念図



リニア岐阜県駅を中心とした広域交通網

1-5 都市計画

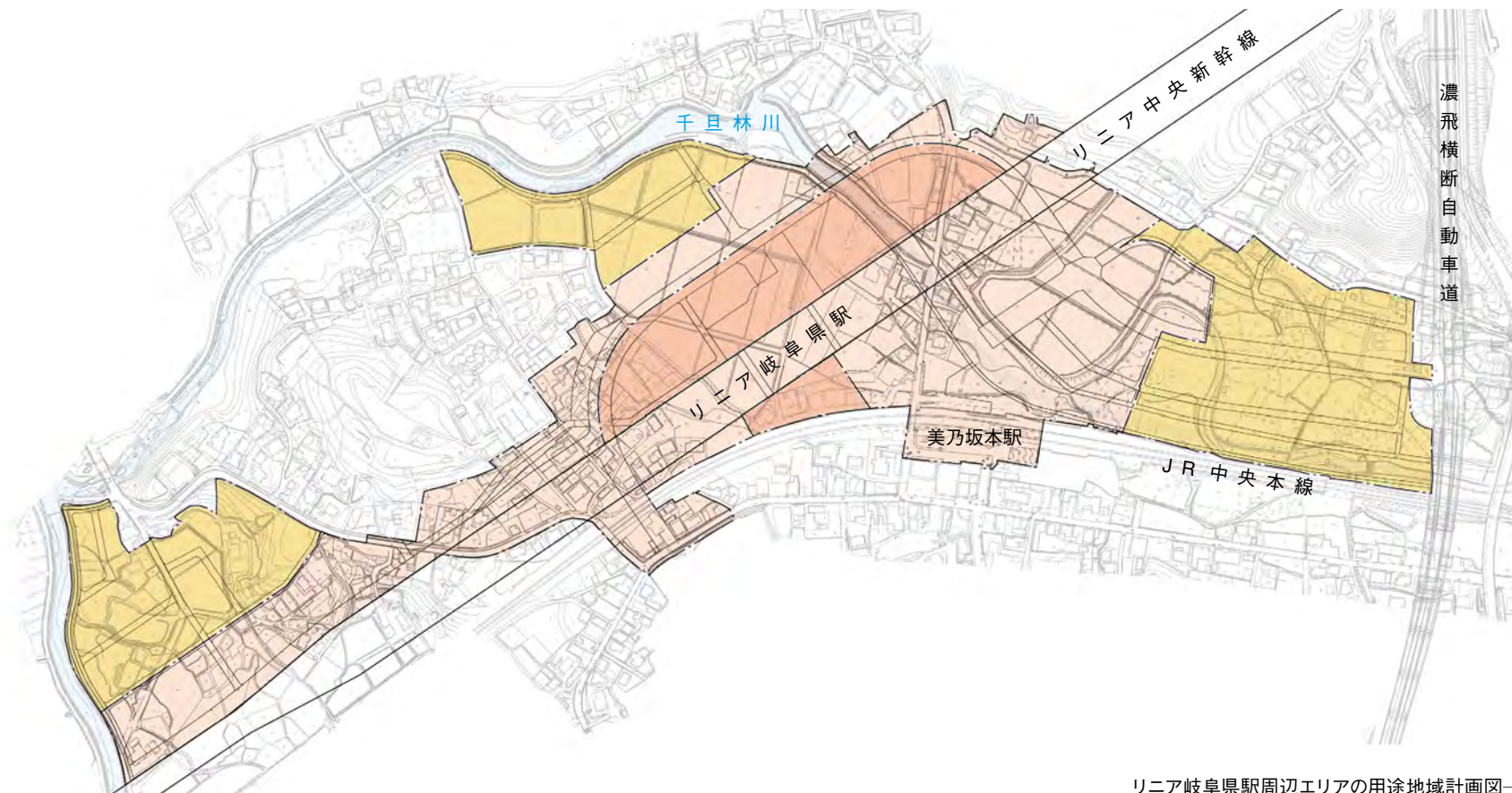


リニア岐阜県駅周辺エリアの土地区画整理事業計画設計図——1/6000

- 幹線道路・駅前広場
- 区画道路
- 特殊道路
- 公園
- 公園・緑地（市有地）
- 河川・水路
- 施行地区区界

令和9年にリニア岐阜県駅の開業が予定されている当地区は、平成29年10月17日に、岐阜県知事から事業認可を受け、中津川市で初となる土地区画整理事業の事業計画を決定しました。

リニア駅周辺地区は、広域の交通拠点として重要な役割を担う地域であり、また、地域住民に対する生活環境の大きな変化などの課題を解消するため、岐阜県の東の玄関口としてふさわしいまちづくりを進めています。



リニア岐阜県駅周辺エリアの用途地域計画図——1/6000

第二種住居地域

建蔽率：60％／容積率：200％

戸建て住宅のほか、周辺住民のための日々の生活に必要な小規模な店舗や事務所などを立地させることで、多様性のある生活環境の形成を図る地区とします。

近隣商業地域

建蔽率：80％／容積率：200％

自動車交通に対応した商業・サービス施設などの土地利用を図るほか、駅から恵那山への眺望を生かしながら観光・交流の機能を有した施設を立地させることで、自然景観と融合した空間の形成を図る地区とします。

近隣商業地域（高度利用）

建蔽率：80％／容積率：300％

土地の高度利用を許容し、中高層の商業施設及び宿泊施設などを立地させることで、コンパクトで賑わいのあるまち並みの形成を図る地区とします。

※用途地域…

環境保全や利便の増進のために、建物の用途に一定の制限を行う地域のこと。

※建蔽率…

敷地面積に対する建物面積の割合。

※容積率…

敷地面積に対する建物の延床面積の割合。

1-6 かわまちづくり

河川がもたらす魅力あるまち

「かわまちづくり」とは、地域が持つ資源や地域の創意に富んだ知恵を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民などと河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組です。

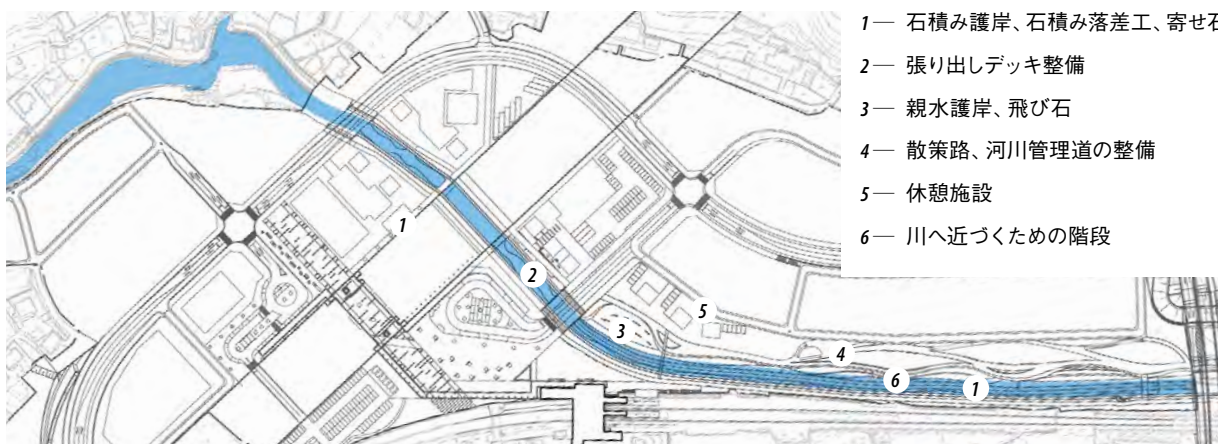
千旦林川の親水公園の計画が、中津川市かわまちづくり計画として、2021年（令和3年）3月に、国の支援制度に登録されました。



「中津川市かわまちづくり計画」登録証伝達式の様子

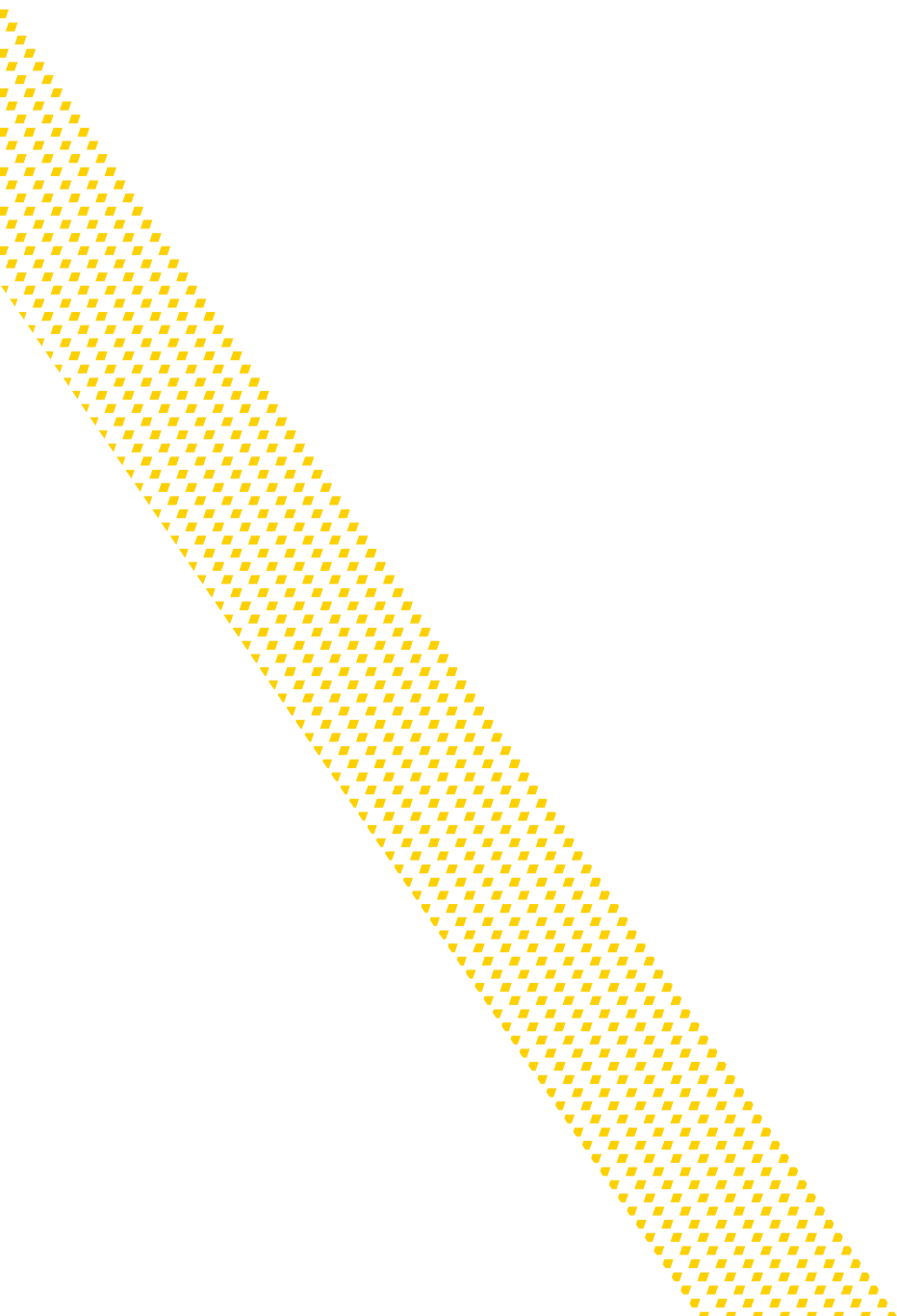


整備前の千旦林川



整備後の千旦林川と整備内容 →P40～44

※各施設の内容や配置は、駅周辺計画として望ましいイメージの一例であり、決定したものではありません。
特に公共用地以外の使い方については、今後、地権者の方の意向によります。



2

コンセプトと全体計画

2-1 リニア岐阜県駅周辺エリア デザインコンセプト

人の暮らしと豊かな自然を結ぶ場所

古来より、美しい川の流れが多くの恵みをもたらしてきた自然豊かな岐阜の地は、「清流の国」とも呼ばれ、また、古くから中山道など人々の暮らしを結ぶ街道が敷かれた中津川は宿場町として発展し、街道文化が育まれてきました。

「清流」と「街道」というこの地を代表する2つの風景が、本計画の重要なテーマであり、デザインコンセプトにつながります。

街道のイメージ 馬籠宿



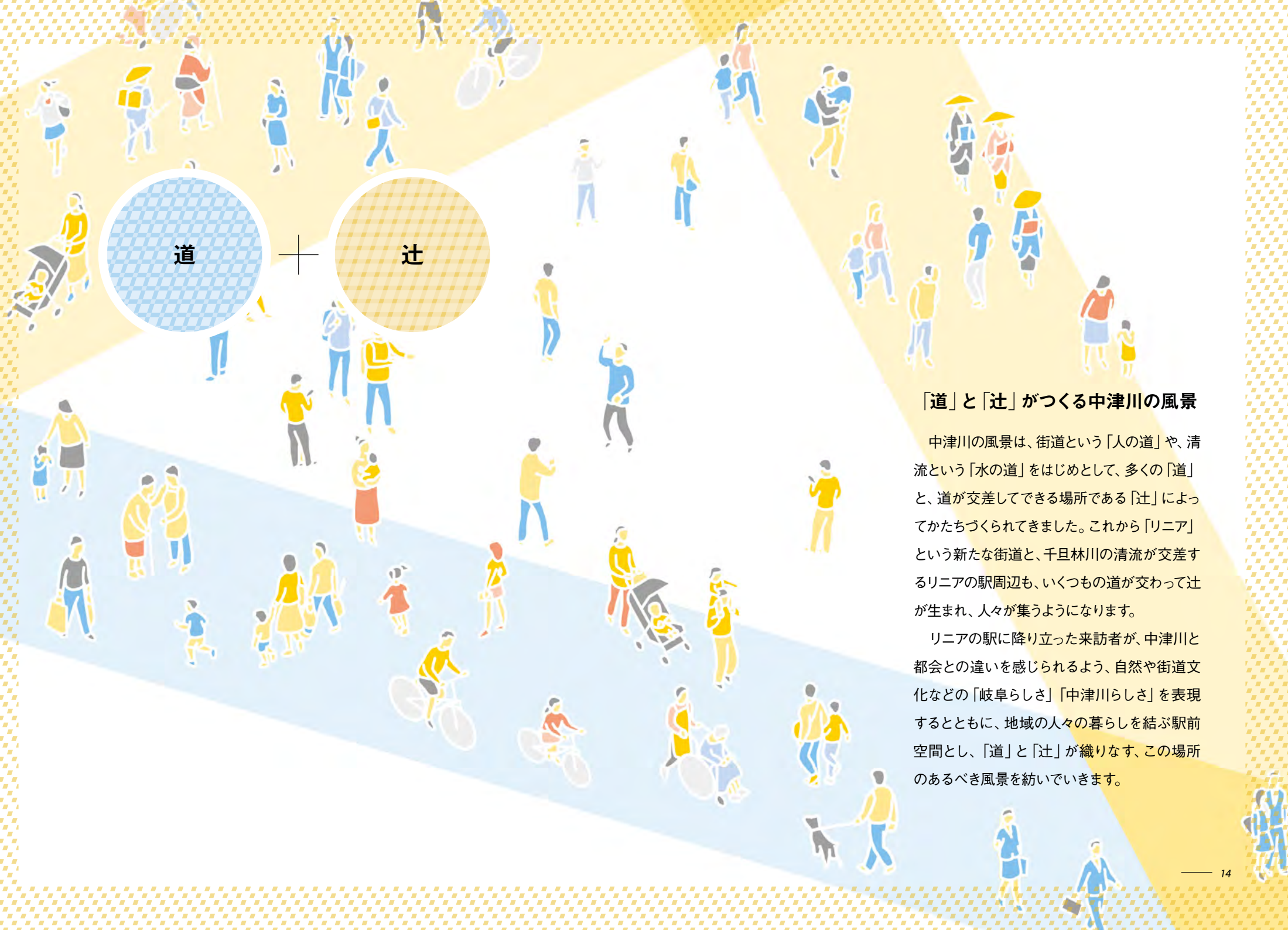
清流のイメージ 付知峡



街道



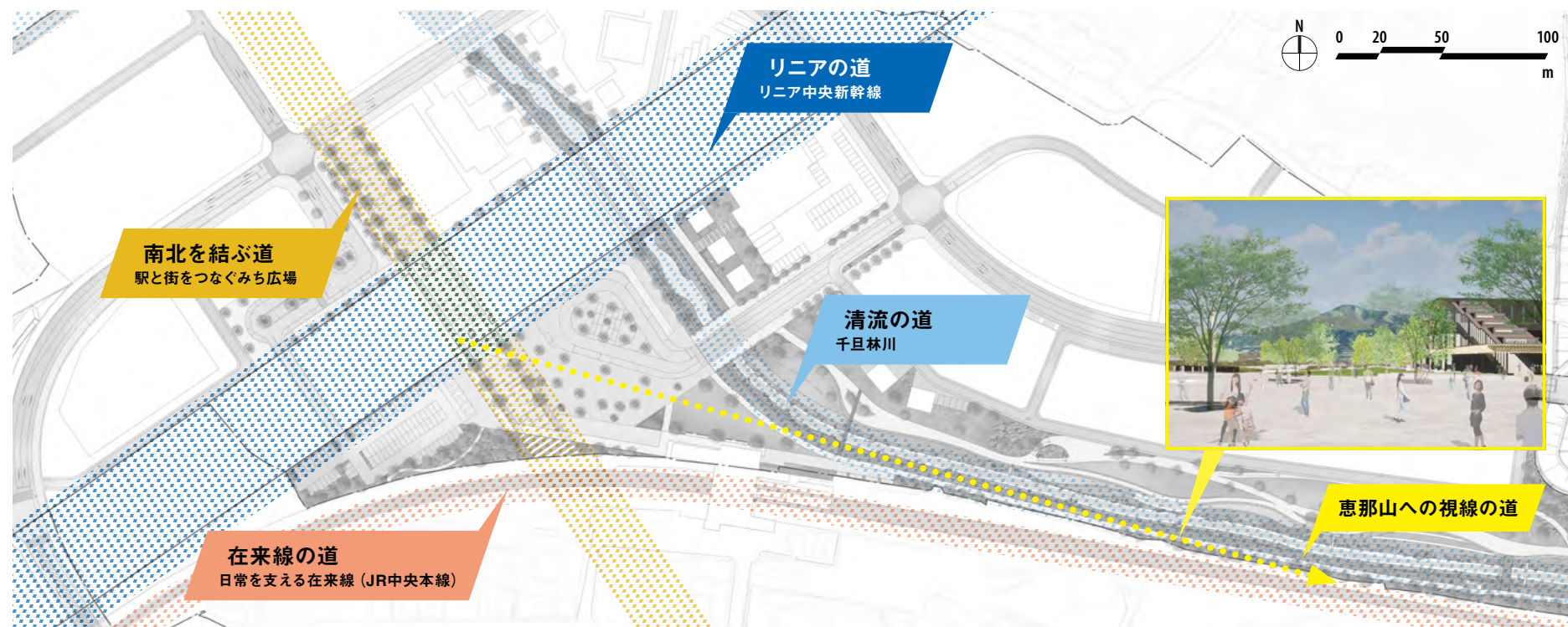
清流



「道」と「辻」がつくる中津川の風景

中津川の風景は、街道という「人の道」や、清流という「水の道」をはじめとして、多くの「道」と、道が交差してできる場所である「辻」によってかたちづくられてきました。これから「リニア」という新たな街道と、千旦林川の清流が交差するリニアの駅周辺も、いくつかの道が交わって辻が生まれ、人々が集うようになります。

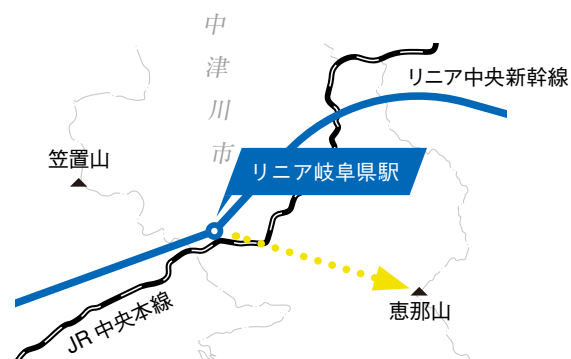
リニアの駅に降り立った来訪者が、中津川と都会との違いを感じられるよう、自然や街道文化などの「岐阜らしさ」「中津川らしさ」を表現するとともに、地域の人々の暮らしを結ぶ駅前空間とし、「道」と「辻」が織りなす、この場所のあるべき風景を紡いでいきます。



全体平面図——1/3000

「道」が行き交う場所

リニア岐阜県駅周辺では、人々の活動の場が様々な「道」によってつくられます。リニア中央新幹線がつくる道、千旦林川がつくる清流の道、そして駅南北をつなぎ、人の往来やにぎわいを生み出す道など、これらの道が交わる辻に人々の居場所となる場が生まれます。



恵那山へとつながる軸

まちのシンボルでもある「恵那山」への遠景を望む「視線の道」も、リニアの駅周辺を構成する非常に重要な要素になります。

この地を訪れた人が、リニアの駅を降りた瞬間、雄大な恵那山に迎えられるような、「恵那山」への遠景を意識したデザインとします。

街道と清流の行き交う場所

—人と暮らしと豊かな自然を結ぶ—

リニアという新たな街道と千旦林川の清流が交差する駅周辺において、来訪者が駅に降り立った時に都会との違いを感じられるよう、自然や街道文化などの「中津川らしさ」を表現するとともに、地域の人々の暮らしを結ぶ駅前空間とします。

広域交通拠点における空間整備方針

1 コンパクトな駅機能

コンパクトな空間に必要な機能を備えた利用しやすい駅や駅前広場をつくります。



2 スムーズな乗換え

駅利用者が鉄道からバス・タクシーへと円滑に乗換えができる交通結節機能を担保します。



3 段階的な整備

駅利用者や土地利用のニーズに対応した段階的な整備をします。



4 新しい交通技術革新

自動運転など、技術革新を踏まえた交通空間を構築します。



5 名古屋駅との機能分担

岐阜県駅の強みを活かし、利用規模などに応じた名古屋駅との機能分担を考慮します。



6 多機能な広場

イベント時や災害時などにも対応する各種施設・空間の多機能化を実現します。



景観・環境整備方針

1 「清流の国」の親水空間

千旦林川を活用し「清流の国ぎふ」のイメージをアピールできる親水性のある空間づくりをします。



2 眺望と景観を活かす

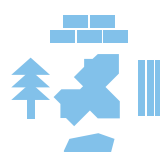


3 都会との違い

樹木や地元産材などにより、都会との違いを創出します。

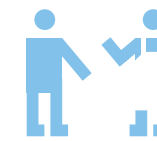


4 地元産業の活用



5 地元住民との交流

リニア利用者と地元住民が集うにぎわいの空間を創出します。



6 歴史や文化を演出



2-2

リニア岐阜県駅周辺エリア 施設配置と整備方針

「辻」がつくる広場

リニア中央新幹線、千旦林川、南北をつなぐみち広場などの「道」が交わる「辻」となる部分に、恵那山を望む中央駅前広場、交通機能を担保する北口駅前広場、千旦林川沿いの親水広場といった、人々の居場所や活動の受け皿となるような広場が生まれます。

駅前の交通機能を確保する広場

みち広場

北口駅前広場

(仮称) 清流の国ぎふ
観光ターミナル

自由通路

リニア岐阜県駅

中央駅前広場

みち広場

駅前の賑わいを創出し
恵那山を望む広場

リニア高架下

千旦林川テラス

エントランスロード

「清流の国ぎふ」を表現する
千旦林川沿いの親水空間

千旦林川親水公園

美乃坂本駅

J R 中央本線



0 20 50 100
m

全体平面図——1/2500

※各施設の内容や配置は、駅周辺計画として望ましいイメージの一例であり、決定したものではありません。特に公共用地以外の使い方については、今後、地権者の方の意向によります。

中央駅前広場

- ・景観、自然などに配慮するため、コンパクトな駅前広場とし、機能確保のため、バスのショットガン方式※などを取り入れます。
- ・広域的な移動をスムーズに行えるよう、バリアフリーで鉄道からバス・タクシーへの円滑な乗換ができる駅前広場とします。
- ・イベント時の活用や、災害時の一時避難場所にするなど多機能化を図ります。

→ ① コンパクトな駅機能 ② スムーズな乗換え
⑥ 多機能な広場

- ・乗換の動線などを確保し、観光バスの利用をしやすい施設配置にするなど、名古屋駅との機能分担を図ります。

→ ⑤ 名古屋駅との機能分担

- ・恵那山の眺望や自然景観を重視した整備を行います。
- ・樹木や地元産材を配置し、来訪者が都会との違いを感じられる駅前広場空間を整備します。

→ ② 眺望と景観を活かす ③ 都会との違い

北口駅前広場

- ・私的交通中心の北口駅前広場に隣接して駐車場機能を配置し、平面駐車場から立体駐車場への移行など、ニーズに合わせた段階的な整備を行います。
- ・自動運転などの技術革新を見据えた整備を想定します。

→ ③ 段階的な整備 ④ 新しい交通技術革新

千旦林川親水公園

- ・千旦林川沿いに親水性のある斜面広場と公園を整備します。
- ・河川沿いに小道を作り、回遊できる空間を確保します。

→ ⑦ 「清流の国」の親水空間

- ・鉄道からバス・タクシーへ乗換える駅利用者と、駅前のイベントに参加する地元住民などが交わる、にぎわいの空間とします。
- ・歴史や文化を演出し、イベントにも活用できる広場空間を創ります。
- ・県内各地で生産される素材を建築や広場に活用します。

→ ④ 地元産業の活用 ⑤ 地元住民との交流
⑥ 歴史や文化を演出

※ショットガン方式…

混雑防止などのため、駅から離れた場所にバスター待機場所を設け、乗り場に空きができると次のバスが向かう方式。

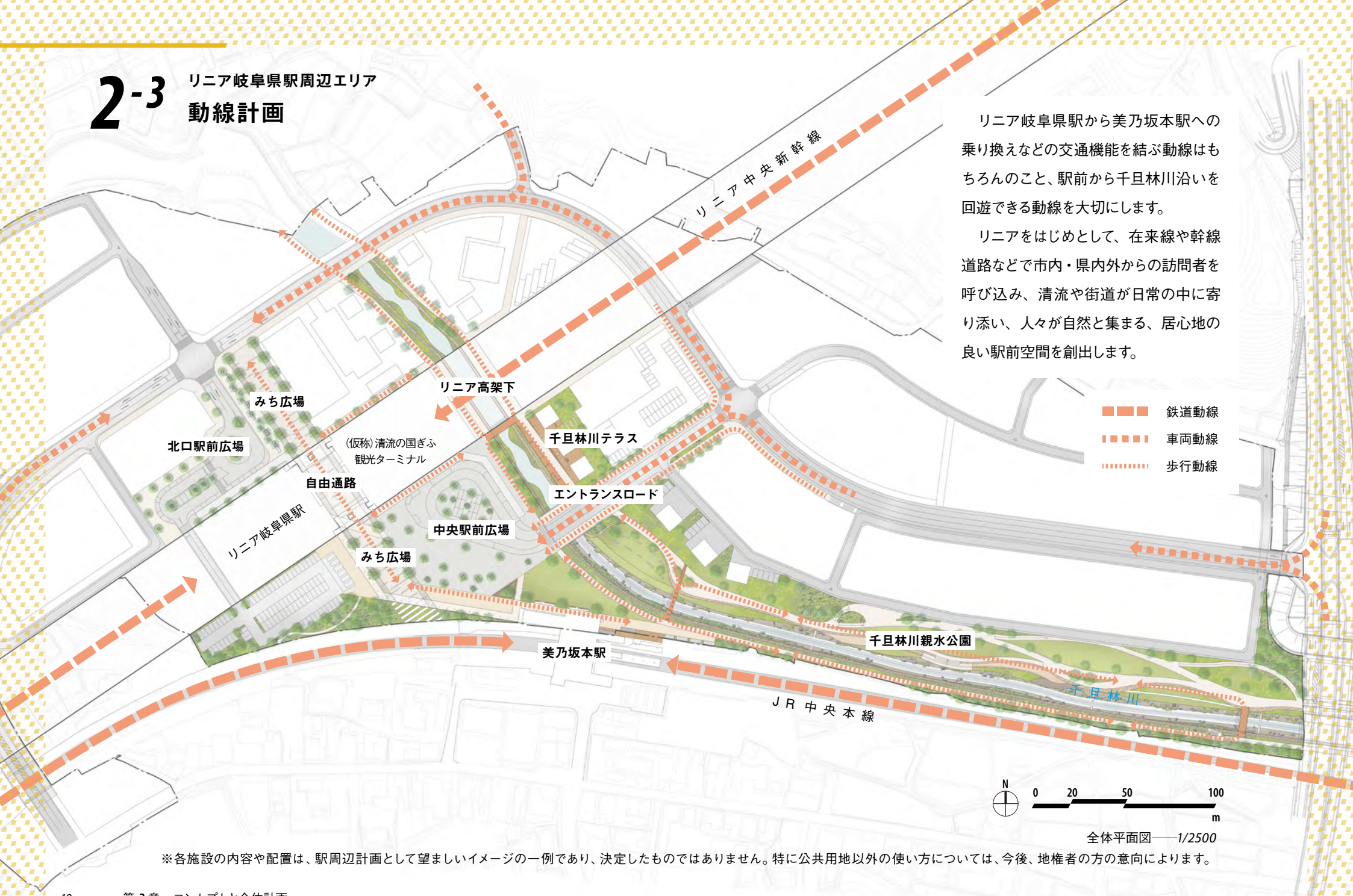
2-3

リニア岐阜県駅周辺エリア 動線計画

リニア岐阜県駅から美乃坂本駅への乗り換えなどの交通機能を結ぶ動線はもちろんのこと、駅前から千旦林川沿いを回遊できる動線を大切にします。

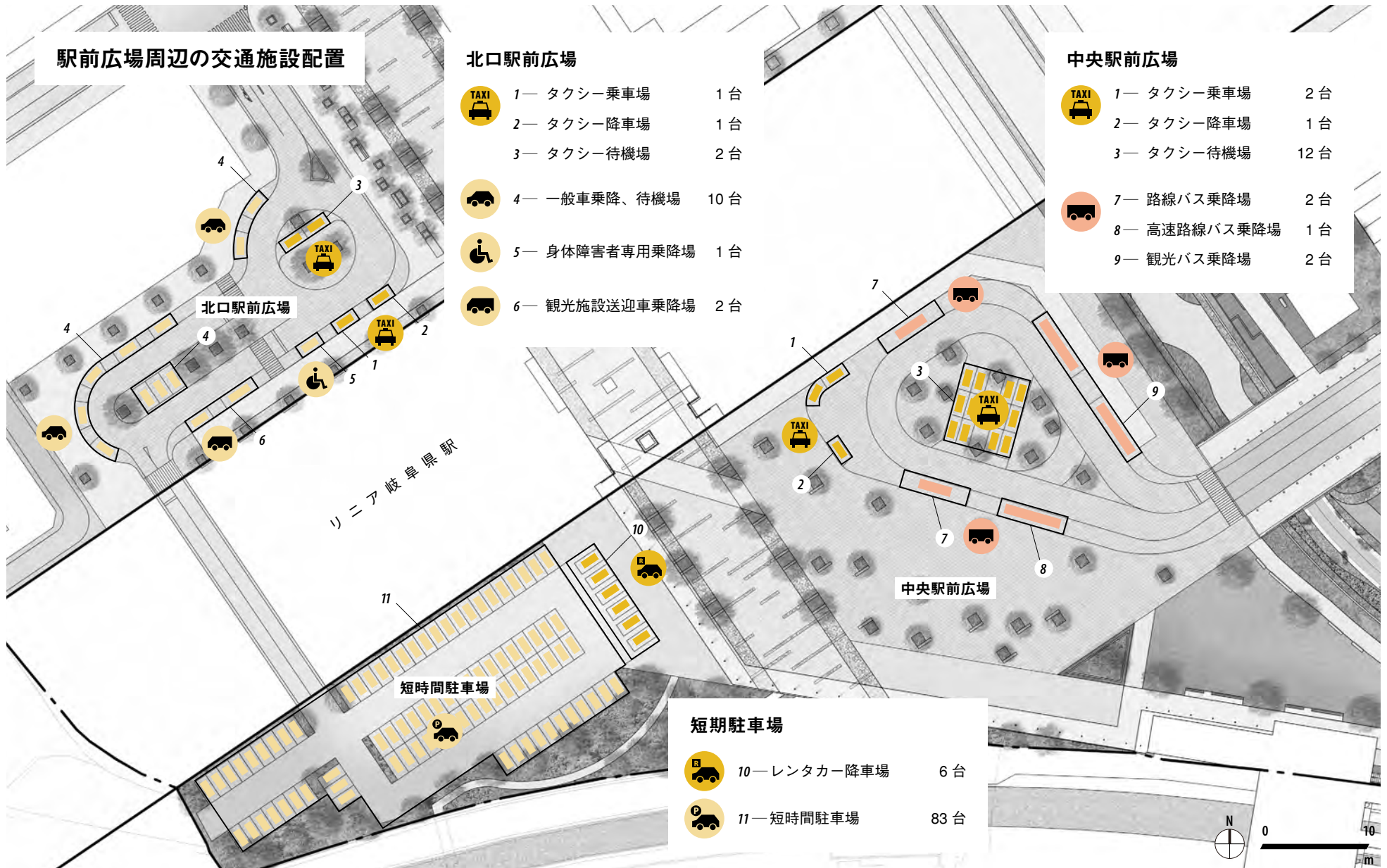
リニアをはじめとして、在来線や幹線道路などで市内・県内外からの訪問者を呼び込み、清流や街道が日常の中に寄り添い、人々が自然と集まる、居心地の良い駅前空間を創出します。

- 鉄道動線
- 車両動線
- 歩行動線



※各施設の内容や配置は、駅周辺計画として望ましいイメージの一例であり、決定したものではありません。特に公共用地以外の使い方については、今後、地権者の方の意向によります。

駅前広場周辺の交通施設配置



北口駅前広場

- 1— タクシー乗車場 1台
- 2— タクシー降車場 1台
- 3— タクシー待機場 2台
- 4— 一般車乗降、待機場 10台
- 5— 身体障害者専用乗降場 1台
- 6— 観光施設送迎車乗降場 2台

中央駅前広場

- 1— タクシー乗車場 2台
- 2— タクシー降車場 1台
- 3— タクシー待機場 12台
- 7— 路線バス乗降場 2台
- 8— 高速路線バス乗降場 1台
- 9— 観光バス乗降場 2台

短期駐車場

- 10— レンタカー降車場 6台
- 11— 短時間駐車場 83台

駅前広場周辺の交通施設配置図—1/500

2-4 リニア岐阜駅周辺エリア 将来の土地利用イメージ



1— 中央駅前広場



公共交通中心のコンパクトな交通広場と、恵那山の眺望を大切に広場空間を配置します。みち広場も含めてイベント開催なども可能で、来訪者と地域住民の交流の場としても、何度も訪れたくなる居心地の良い空間とします。

2— 北口駅前広場



自家用車など私的交通中心の交通広場として、駐車場に隣接し、生活に寄り添ったスムーズな交通機能を確認します。

3— 立体駐車場



駅利用の長時間駐車場を段階的に整備し、周辺施設の利用のための駐車機能を確認します。

4— バス用駐車場



中央駅前広場に乗り入れるバスのための待機所を駅前以外で確保します。ピーク時には臨時の乗降スペースとしても機能するよう配置します。

5— 商業施設・宿泊施設



大小の商業施設や、来訪者の移動の拠点となる宿泊施設などが立地することにより、駅利用者や地元住民にも利用される活気ある駅前になります。

6— 平面駐車場



平面駐車場を整備することにより、周辺施設の利用のための駐車機能を確認します。駅前の発展に応じて、利用が見込まれる施設などを段階的に整備することができます。

7— 生活便利施設



地元住民だけでなく、来訪者にとっても利用しやすいスーパーやコンビニなどの生活便利施設が立地することにより、駅前だけでない場所へ来訪者が訪れる機会を生み出します。

8— 地元物産販売施設



駅からも、道路からも利用しやすい地元物産を販売する施設が立地することで、来訪者だけでなく、地元住民にも日常的に立ち寄ってもらえる場所になります。

9— テラス沿い施設



河川に設けるテラスと一体的に飲食・物販施設が立地されることで、にぎわいを感じられ、駅から少し足を延ばしたくなる空間とします。来訪者はその先にもさらに歩いていきたいなど、他の施設との一体的な連携も考えられます。

10— 親水公園沿い施設



千旦林川沿いの散策や河川で遊ぶ際の憩いの場として、親水広場や河川沿い公園と一体となったレストランやカフェなどが立地することで、中央駅前広場からの視線の先に魅力的な空間が創出され、川へ近づききっかけを作ります。

11— 親水公園



「清流の国 ぎふ」を体感できる川と公園が一体となった親水広場を配置。遊歩道や広場、飲食店など、駅前でありながら様々な体験ができ、来訪者や地域住民の憩いの場となります。また、自然と地域の関わりが感じられる空間となります。

※各施設の内容や配置は、駅周辺計画として望ましいイメージの一例であり、決定したものではありません。特に公共用地以外の使い方については、今後、地権者の方の意向によります。

2-5 岐阜らしさを伝える

岐阜の魅力を集める

街道、清流の他にも、岐阜にはさまざまな魅力や資源があります。岐阜らしさを伝えるための方策として、「素材」「植栽」「言葉」をテーマとして、それらを集結させ、織り込んでいくような空間づくりをすることで、来訪者に岐阜らしさを感じたり、岐阜のことをもっと知ってもらえるような演出を行います。



岐阜らしさを伝える方策



岐阜県内で産出、製造などを行っている地元のさまざまな素材を駅周辺整備に使用します。



岐阜の自然植生や岐阜を象徴するような植栽を取り入れることで、岐阜らしさを演出します。



岐阜県内42市町村の見所や魅力を情報サインとして広場に刻み込み、周辺地域の情報発信に寄与します。

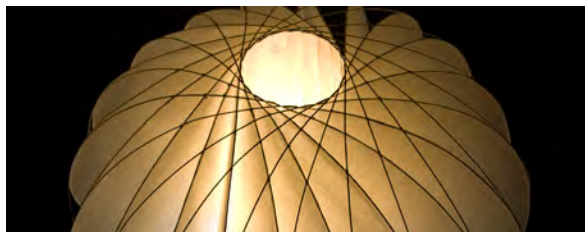
2-5 岐阜らしさを伝える

素 材

岐阜県産の素材を散りばめる

岐阜提灯、関の刃物、美濃和紙、東濃ひのき、飛騨の家具など様々な県産品があります。駅周辺で設置・利活用する場所を用意し、岐阜らしさを演出します。

美濃の和紙



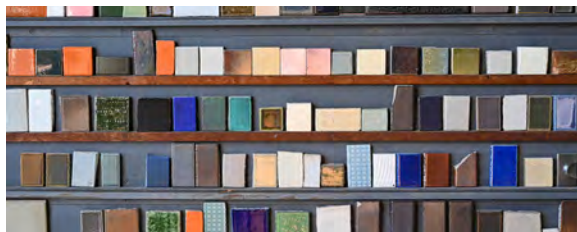
広場内に置かれる照明の一部にガラスで挟み込んだ美濃紙を採用することで、夜間でも美濃紙の魅力と岐阜らしさを感じる演出を行います。

岐阜の鋳物



岐阜市内には室町時代から続く、歴史ある鋳造メーカーがあります。長い歴史の中で培われた技能を生かした鋳物の景観施設（ボラード・照明柱など）を駅前広場に採用します。

多治見・土岐の磁器質タイル



駅前広場の舗装やベンチの一部に地場産の磁器質タイルを採用します。

中津川の蛭川石、大垣の大理石



みち広場や親水広場のベンチに中津川の蛭川石を用います。また、大垣市内で古くから大理石の採掘が行われる金生山の歴史を伝えるように、駅前広場の舗装やベンチの一部に大理石を採用します。

東濃ひのき、飛騨の木材



伝統ある「飛騨の匠」の技術を伝える杉材の家具や、近年飛騨市が取り組む広葉樹を活用した内装材を、観光ターミナルや自由通路などに採用します。



植栽

岐阜の潜在自然植生や、県内の市町村を象徴する木や花を植えることによって、岐阜らしさを感じる駅前空間により訪れた人を出迎えます。具体的な樹種などの選定は今後検討を行います。



イチイ



コウヤマキ



ヒノキ



ツブラジイ



クルミ



ミズナラ



ハナノキ



シデコブシ

画像出典：Wikipedia

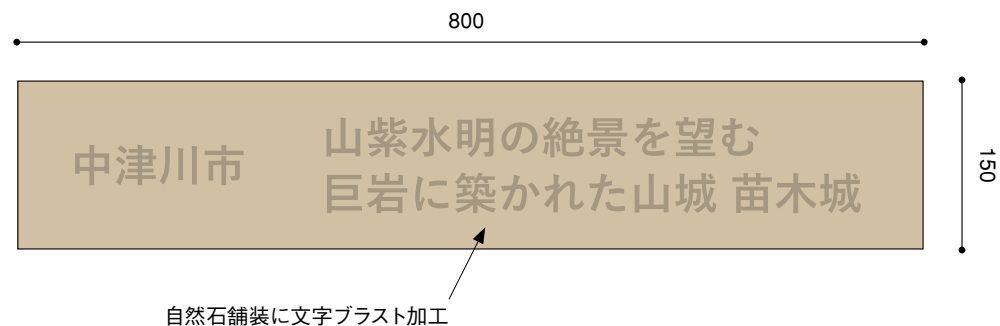
2-5 岐阜らしさを伝える



岐阜を見つける、発見に満ちた言葉

岐阜県の42市町村の歴史、文化、伝統芸能、祭り、観光地、景勝地、山岳、名産など、駅へ訪れた人々が実際に足を運んでみたくなるような言葉を記したサインをみち広場の舗装に刻み込みます。

サインの大きさや文章の字数は一定としながらも、みち広場内にランダムに散りばめることで、歩行者がサインを探すことを楽しめるようなつくりとします。

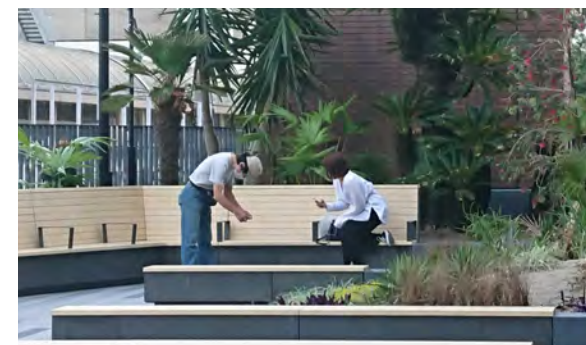


情報サイン例——1/10

※内容、デザインは仮のものとなります。



みち広場の舗装に刻みこむサインのイメージ



歩行者がサインを探す行為も駅前の新しい風景に

3

施設のデザイン



3-1

リニア岐阜県駅周辺エリア 鳥瞰イメージ



北口駅前広場

→ P38

リニア岐阜県駅

自由通路

→ P29

みち広場

→ P33

中央駅前広場

→ P35

リニア高架下

→ P49

千旦林川テラス

→ P47

美乃坂本駅

→ 51



エントランスロード(リニア岐阜県駅停車場線)

→ P55

千旦林川親水公園

→ P40

千旦林川

JR 中央本線

リニア岐阜県駅周辺エリア鳥瞰イメージ

3-2 自由通路

来訪者を迎える新たな宿場町

リニア中央新幹線利用者が駅に降り立って、中津川市（岐阜県）を一番最初に目にする場所が、この自由通路になります。リニアの駅舎を貫通して南北2つの駅前広場をつなぐ連絡施設を、街道のまちなみをイメージした一体的なデザインとすることにより、この地を訪れる人々を迎え入れる空間を創出します。

POINT
1 2

POINT
3

POINT
1

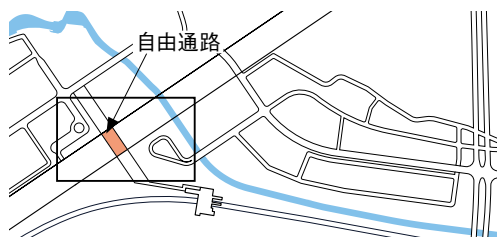
「清流の国ぎふ」への来訪者を出迎える空間として、岐阜県内の自然、歴史と伝統を感じる各種素材を活用し、この地域独自の魅力を発信します。特に、この地の街並み、建築物の意匠や地域産材などを活用することで、懐かしくも新しい風景をデザインします。

POINT
2

岐阜県の東の玄関口として、リニア岐阜県駅から来訪者を市内・県内へ誘導します。さらに再び訪れたいと感じさせるような誘客効果を高めるため、利用者動線の確保に加え、その先にある市街地、県内各地の魅力を予感させるようなデザインとします。広場側に開いた形状の屋根で、来訪者を迎え入れると同時に周辺エリアへの誘導を促します。

POINT
3

この地の長い歴史・文化を育んできた中山道のまちなみと同調する意匠とし、市内各地の宿場町や街道沿いの風情、情緒を表現します。



1— 街道のまちなみをイメージしたファサード（正面の意匠）

自由通路平面図——1/500

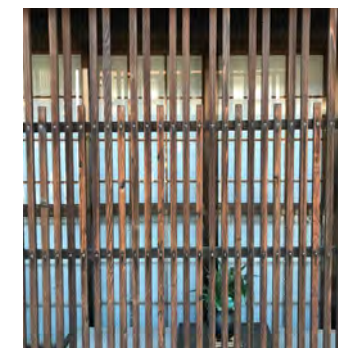
2— シェルター（歩廊屋根）



デザインモチーフとした街道のまちなみ



馬籠宿の高札



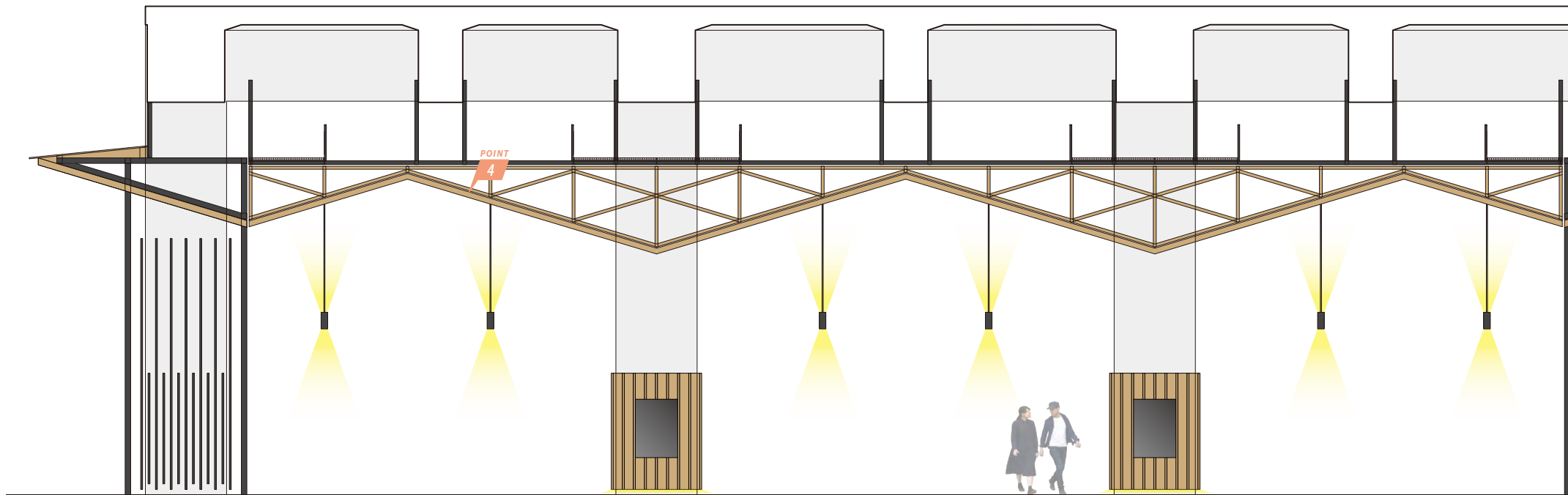
街道沿道の町屋の縦格子

3-2 自由通路



POINT
4

自由通路の天井は、周辺地域の山並みや街道の街並みを彷彿とさせる、山型が連続する木ルーバーで構成されます。懐かしさを感じさせると同時に温かみのあるデザインで、来訪者を迎え入れます。南北の駅前広場に向かって天井が跳ね上がり、周辺エリアへと誘うようなデザインとなります。



自由通路 A-A断面図——1/100

※リニア高架橋本体への設置方法は現在協議中です。



自由通路は来訪者やリニア新幹線利用者の待合スペースや地域住民の憩いのスペース、雨天時などにおいて、駅前広場で行われるさまざまなイベントの代替スペースとなります。

3-3 みち広場

営みと文化を運ぶ街道

古くから、中山道の街道沿いでは中津川宿や馬籠宿などの宿場町に様々な文化が運ばれ、土地の魅力を醸成し、にぎわいを生み出してきました。「道」は単なる移動のためのものだけではなく、人々が出会い、営みが育まれる場でもありました。

リニア駅の南北を貫通し、2つの駅前広場と自由通路を一体的に整備する「みち広場」は、キッチンカーやマルシェなど、様々なイベントも行われ、人々が交流する「広場」としてデザインします。

POINT
1

POINT
3

POINT
1

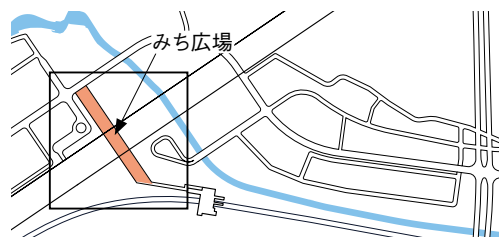
リニアの駅を南北にまっすぐ通る、街道をイメージした道のような広場が、駅の南北のつながりと一体感を与えます。

POINT
2

並木の下にはベンチが並び、待ち合わせやひと休みできる場所となっています。

POINT
3

みち広場の舗装には、岐阜県の各市町村の魅力を伝えるプレートが埋め込まれ、来訪者に岐阜県の魅力を伝えます。



1— 駅の南北を貫く舗装

4— 恵那山の方角を示す舗装

2— 岐阜を紹介する床埋込みサイン

5— シェルター（歩廊屋根）

3— 並木／蛭川石ベンチ

みち広場平面図—1/500

3-4 中央駅前広場

「街道」と「清流」をつなぐ広場

中央駅前広場は大きく分けて2つの区域があります。バスロータリーなど公共交通中心の交通機能を持ち、リニアや在来線などの「街道」とつながる場と、自然に囲まれて柔らかな芝生が広がり、千旦林川という「清流」とつながる場です。

これらがつながり、一体的になった中央駅前広場は、機能と環境を十分に満たし、来訪者にとって快適であり、また、地域住民の暮らしと出会うことのできる駅前広場となります。



リニア岐阜県駅から望む中津川市の代表的な自然景観「恵那山」の眺望を縁取るように木立を配置していきます。また、南東方向に並ぶ木立は、人々を美乃坂本駅そして千旦林川へ誘導する役割も持っています。

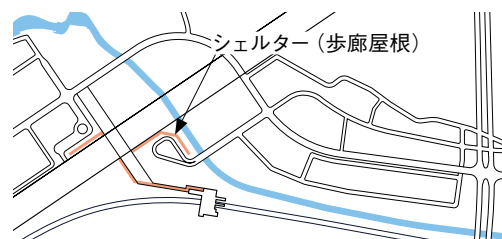
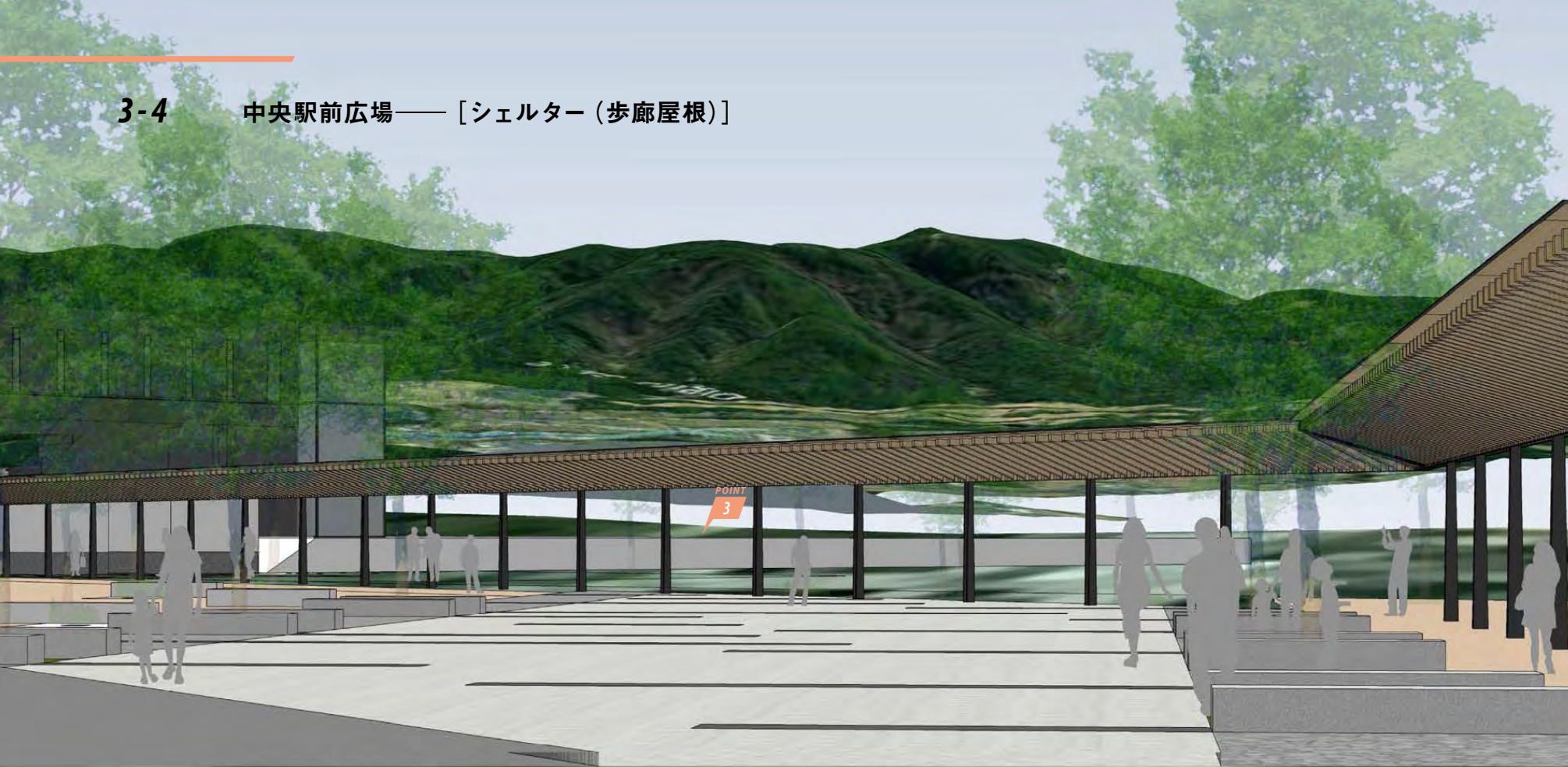
集客イベントの開催や、災害時の一時避難場所など多様な活用方法を想定し、連絡施設と一体化した広場整備、備蓄倉庫設置や非常用電源確保などを行います。



- 1ー 木立の広場 4ー シェルター（歩廊屋根） 7ー ベンチ
2ー ベンチ／植栽枡 5ー 芝生の広場
3ー ロータリー 6ー 縁台／植栽枡

中央駅前広場平面図——1/500

3-4 中央駅前広場——[シェルター（歩廊屋根）]



POINT 3 雨や日差しをよけるため、駅間などをシェルター（歩廊屋根）で結び、在来線、バス、タクシーなどへの乗換動線を確保します。また、誘導サインなどを設置することによって、初めて来訪する人にとってもわかりやすく、移動を最小限とすることができます。



シェルター（歩廊屋根）断面図——1/100

3-5 北口駅前広場



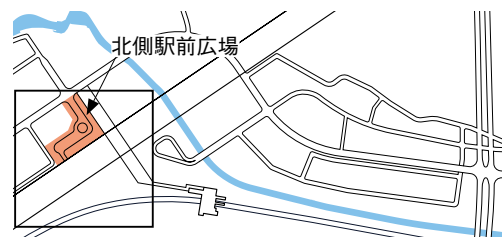
もうひとつの木立の駅前広場

北口駅前広場は、リニア駅を挟んで中央駅前広場と対になるように計画された、自家用車を中心とした駅前広場です。中央駅前広場とデザインをそろえることで、エリア全体の調和を図ります。

3-5 北口駅前広場

POINT 1 中央駅前広場と舗装や植栽を揃えることで、一体感のある駅前を演出します。

POINT 2 ロータリーの前には木陰で佇めるベンチを配し、駅前での待ち合わせを快適にします。



- 1ー ロータリー
- 2ー ベンチ/植栽柵
- 3ー シェルター (歩廊屋根)

北口駅前広場平面図——1/500

3-6 千旦林川親水公園

「清流の国ぎふ」を体現する場所

中央駅前広場から千旦林川を挟んで対岸は「清流」を楽しむことができる親水公園として計画します。約400mにおよぶ公園は、「かわまちづくり※」支援制度を利用し、川と公園の一体的な整備を目指していきます。



※かわまちづくり…

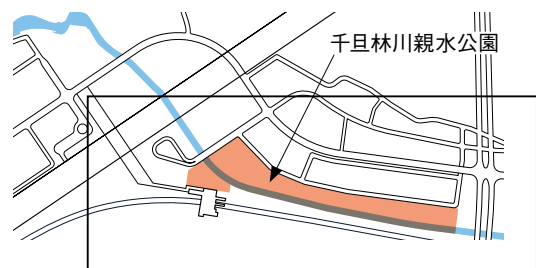
→P11

「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を目指す取り組み。これにより地域のにぎわいを創出します。

3-6 千旦林川親水公園



千旦林川親水公園平面図——1/1000



POINT 1

一級河川千旦林川の川沿いに緑地と小道を設け、石材など地域の素材を用いて、「清流の国ぎふ」を演出する空間とします。

POINT 2

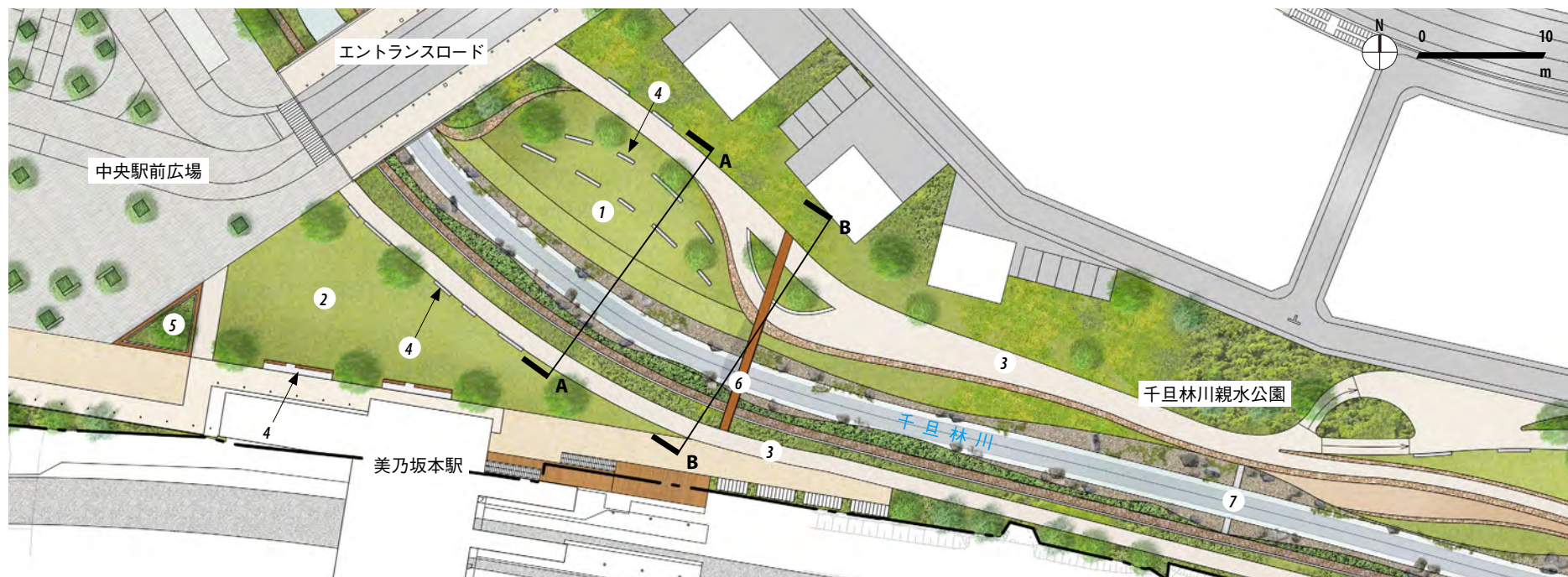
駅前広場と親水公園を緑地でつなぎ、一体的な空間とすることで、観光客や地域住民が散策したり、周辺と往来したりといった回遊性を持たせます。

POINT 3

ゆるい傾斜の法面を下りて川へ近づける場所と、高い位置から川を眺められる居場所をつくり、空間に多様性をつくります。

POINT 4

川の水に触れたり、魚つかみ大会などのイベントなどができる川べりの空間や緑地で憩える斜面などを設け、河川と一体となった公園とします。



1— 川へ近づくことができるエリア

4— ベンチ

7— 落差工

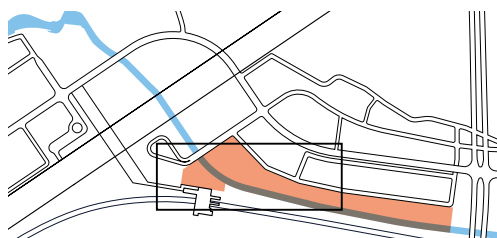
千旦林川親水公園 下流部拡大平面図——1/500

2— 芝生の広場

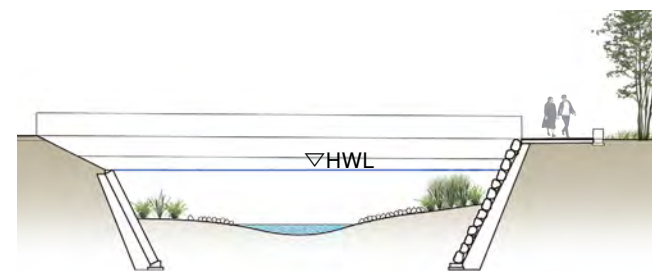
5— 縁台／植栽柵

3— 遊歩道

6— 人道橋

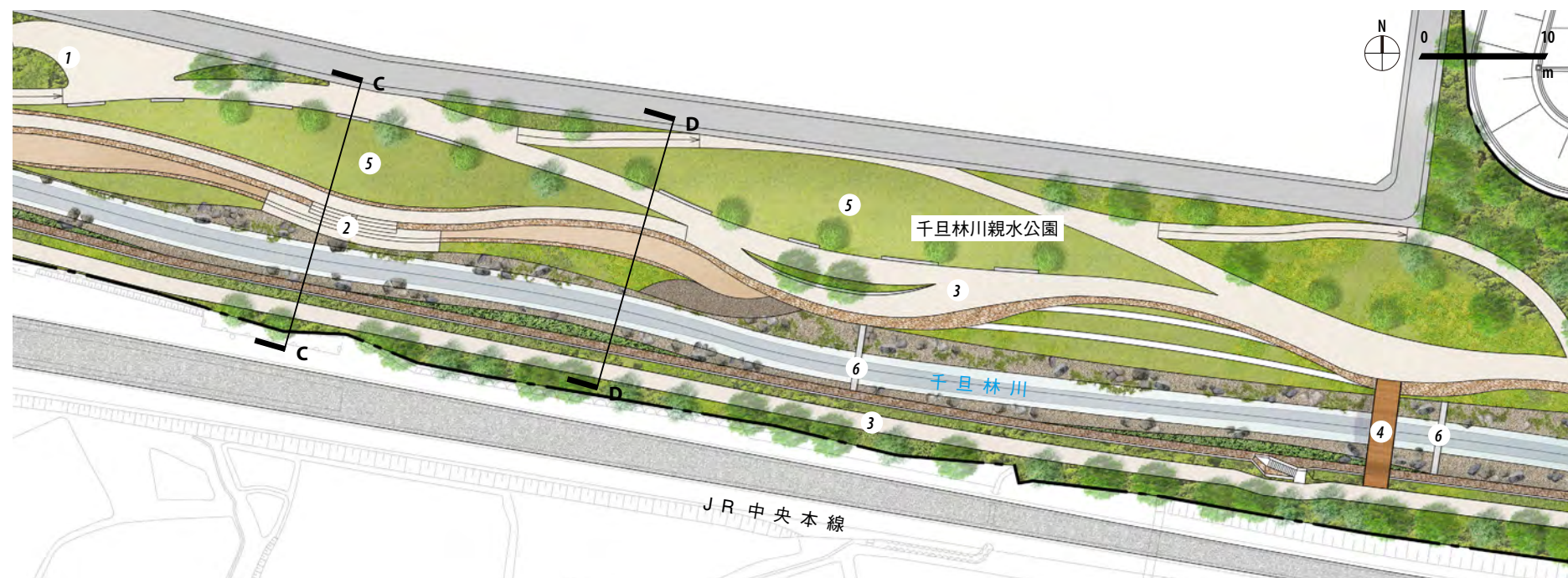


A-A 断面図——1/300



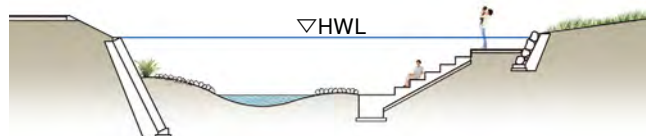
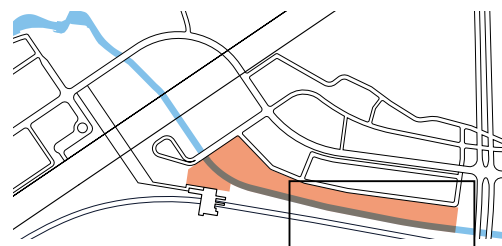
B-B 断面図——1/300

3-6 千旦林川親水公園

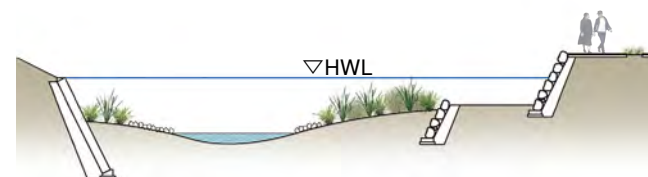


- | | | |
|---------------------------|----------|--------|
| 1— キッチンカーなどが入る
イベントエリア | 3— 遊歩道 | 6— 落差工 |
| 2— 川へ降りられる階段 | 4— 人道橋 | |
| | 5— 芝生の広場 | |

千旦林川親水公園 中流部拡大平面図——1/500



C-C 断面図——1/300

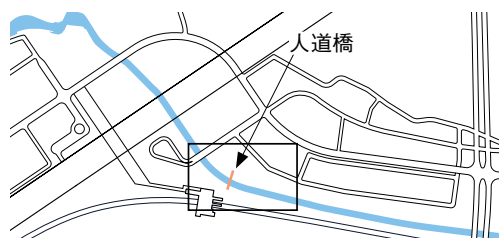
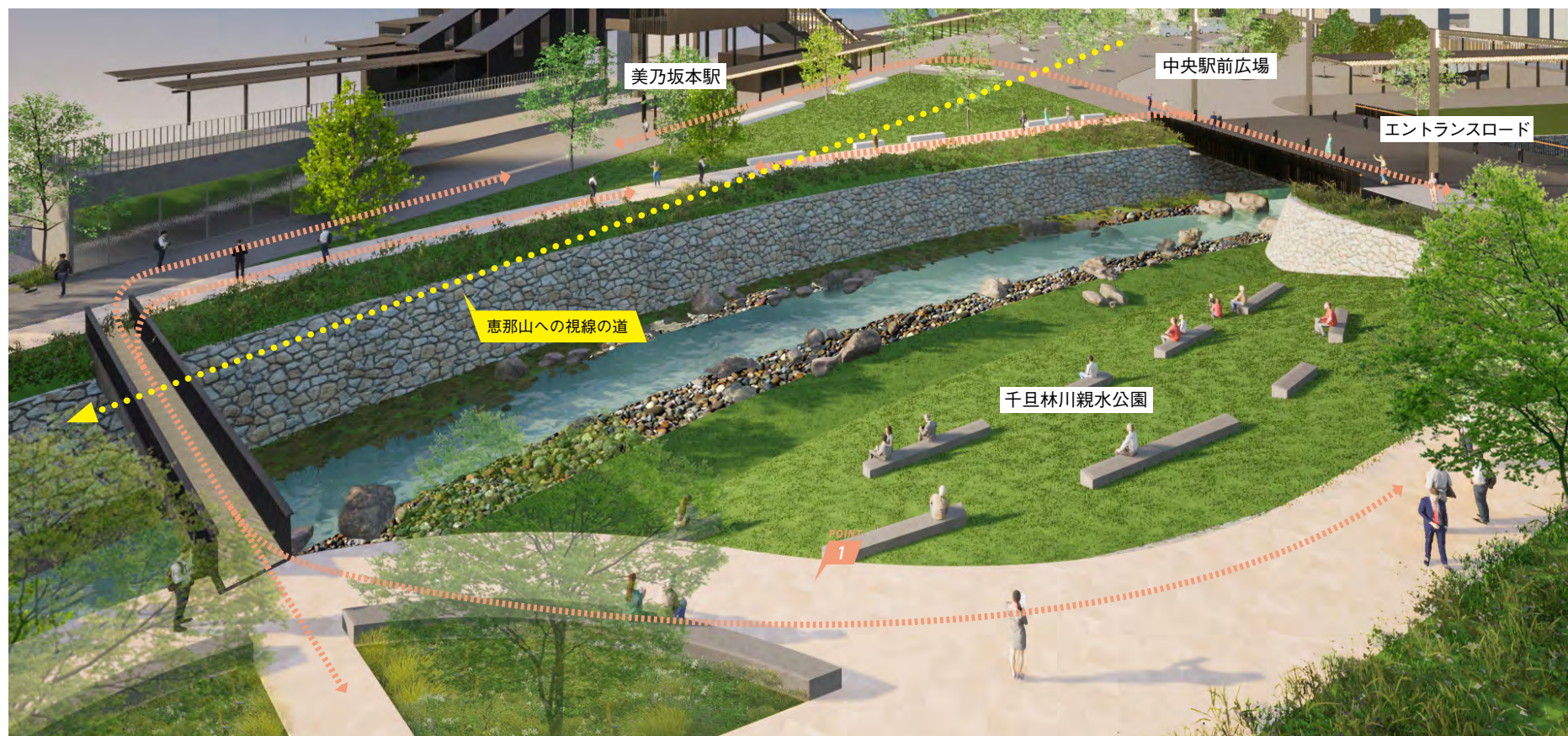


D-D 断面図——1/300



千旦林川親水公園内には、水に近づくことのできる階段状のテラスや、涼しげな木陰の広場、足を伸ばせる斜面の芝生広場など、様々な過ごし方のできる広場があります。また、親水公園と対岸をつなぐ人道橋を通すことで、川の周りを一周して楽しめる空間としています。

3-6 千旦林川親水公園——[人道橋]



POINT 1 中央駅前広場、美乃坂本駅から千旦林川の対岸へと渡る橋をかけます。この場所に人道橋をかけることで、駅前広場と親水公園を風景の違う複数の動線で結び、広場の輪郭を柔らかく包むような回遊動線が生まれます。

POINT
2

人道橋は象徴性、意匠性の高いものとする
ことで、この場所のシンボルとなり、
橋を渡る体験や橋から河川を感じる体験
自体が特別感のあるひとつのアクティビ
ティとなります。

POINT
3

駅前広場から恵那山への視線の道と交
差する人道橋は透明性の高い高欄とする
ことで、開放的な橋上空間としつつ、眺
望を阻害しない、自然環境となじむ橋と
なります。



渡ること自体がひとつのアクティビティとなるような、象徴性の高い橋（事例：出島表門橋）



自然環境とつながる人道橋

※人道橋のデザインや素材などの詳細は検討を行います。

3-7 千旦林川テラス

川沿い空間を楽しめるテラス

千旦林川沿いに設置されたテラスは、中央駅前広場の対岸に計画された川沿いの滞留空間です。隣接する民有地の施設と連携しながらまちの新たな賑わいを生み出していく場所となることを目指します。



POINT
1

隣接する民地と一体となって賑わいを演出できるよう、飲食や休憩など様々な活動が可能な空間づくりを行います。

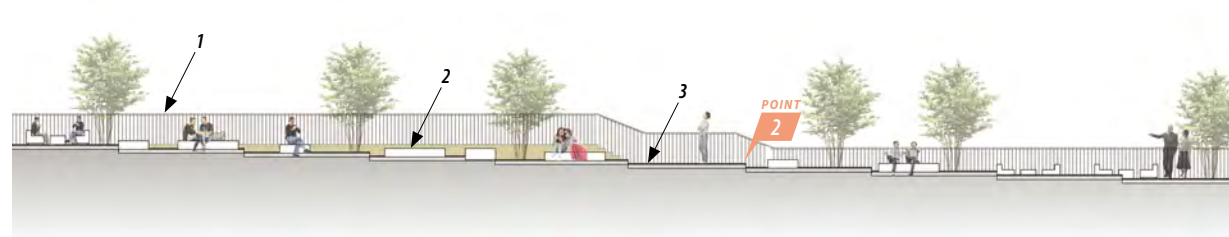
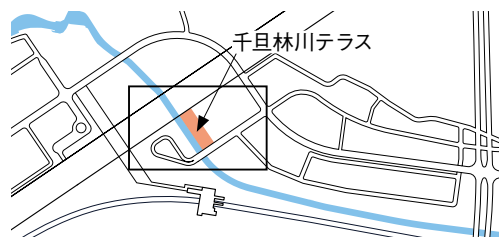
POINT
2

地盤の高低差を生かしてつくられた段差によって、様々な大きさの座面をつくります。これにより、シーンや使い方によって過ごす場所を選ぶことができます。



1— 歩道 2— デッキテラス 3— 人道橋

千旦林川テラス平面図——1/500



1— 転落防止柵 2— ベンチ 3— デッキテラス

A-A 断面図——1/300

3-8 リニア高架下

安心安全の演出

千旦林川沿いの道路とリニアの高架が交差する場所は、リニアの南北間を移動する人々の日常の動線として機能します。リニア高架下の歩道は、安心して通行できるように、安全な歩道空間の整備を目指します。



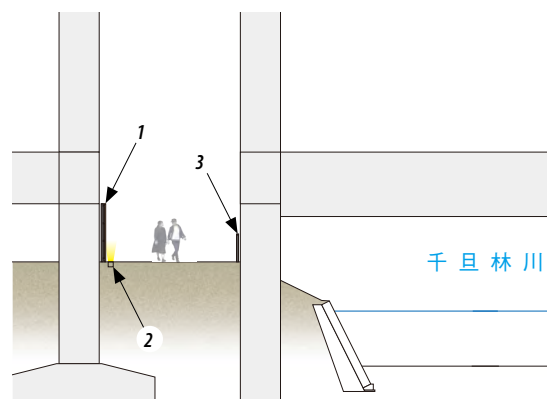
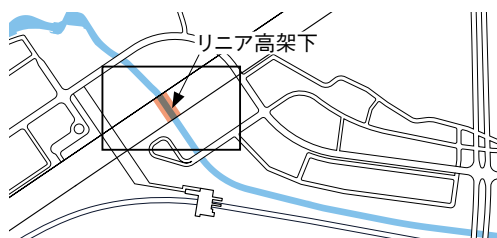
POINT 1 歩道のJR用地側には目隠しとなるフェンスを設置する予定です。フェンスは、空間への圧迫感をつくらず、かつ中津川市の街道を風景を想起させるような縦格子を基調としたデザインとします。

POINT 2 歩行空間と護岸の境界には転落防止の対策を行い、歩行者の安全を守ります。転落防止対策にあたっては、河川管理者と協議を行い、適切な整備を行います。

POINT 3 高架下の空間では、サインやグラフィックなどの楽しく歩ける演出や中津川の情報発信につなげる方策を検討します。



リニア高架下平面図——1/500

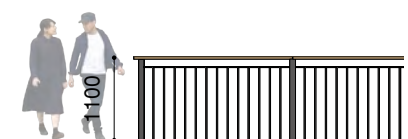


A-A 断面図——1/300

- 1— 目隠し用フェンス
- 2— 足元照明
- 3— 転落防止柵



フェンス立面図——1/100



転落防止柵立面図——1/100

3-9 美乃坂本駅



宿場町の街並みを感じる駅舎

リニア開業により利用者数の増加が想定される美乃坂本駅の新しい駅舎は、幾重にも連続する街道宿場町の屋根をモチーフとします。階段の勾配に沿って庇を階段外側に張り出し、階段上部には幾重にも連続する屋根（ハイサイドライト）を設置。馬籠の宿場町のように、街道勾配に沿うように屋根が連なります。構造的と機能性を両立させ、中津川の街道文化の演出を図ります。

POINT
1

階段の屋根について、既存の街並みに調和するよう、過度なスケール感、圧迫感があるような形態は避け、小さく分節されたデザインとします。

POINT
2

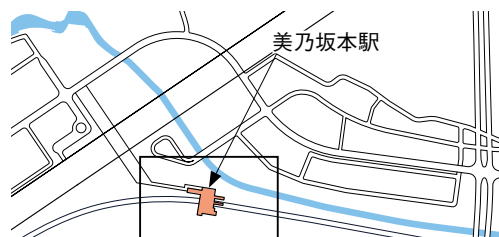
階段は明るく開放的なデザインとし、周辺の山々や街並み、新しく整備される駅前広場などが広く望めるような設えとします。冬の風雪除けのため階段部はガラスで覆い、階段を上り下りしながら、周辺環境を眺められるデザインとなります。

POINT
3

直射日光を受け、風雨に直接さらされる外壁や屋根は、耐久性を考慮したダークグレーを基調色とした金属板仕上げとします。

POINT
4

中央駅前広場に面した場所に、駅前広場や恵那山を望む視点場となる眺望デッキを設けます。豊かな自然環境に囲まれたリニア岐阜県駅とその周辺を眺めることができます。

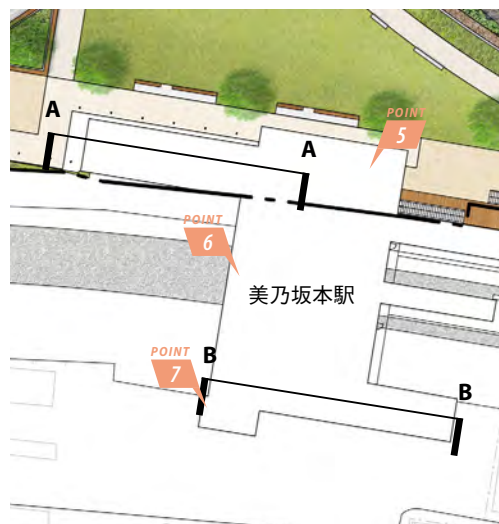


美乃坂本駅平面図——1/500



デザインモチーフとした馬籠宿の屋根の重なり

3-9 美乃坂本駅

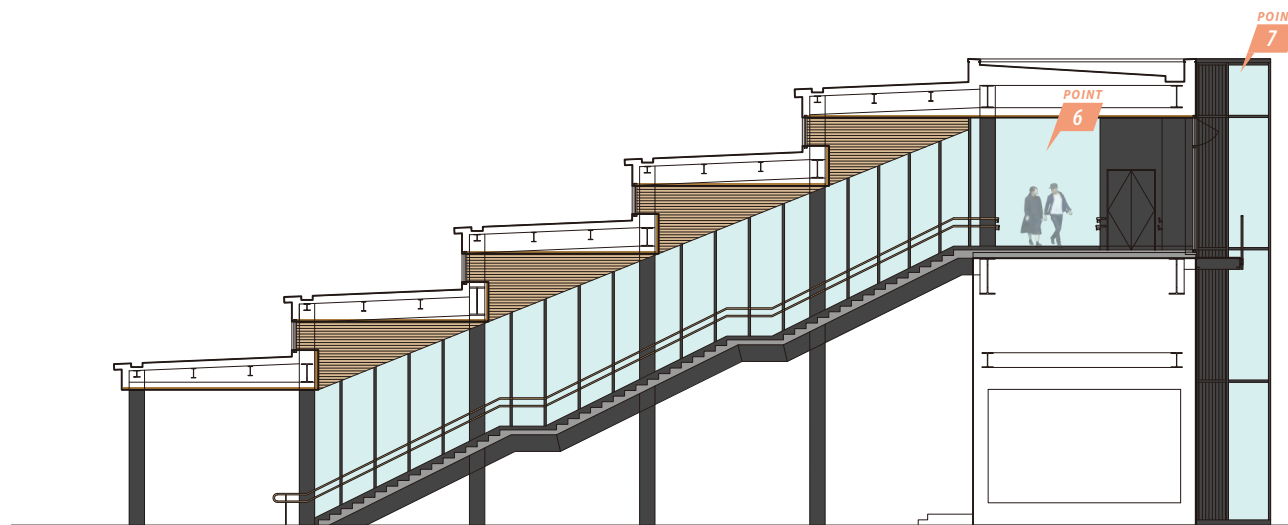


A-A断面図——1/200

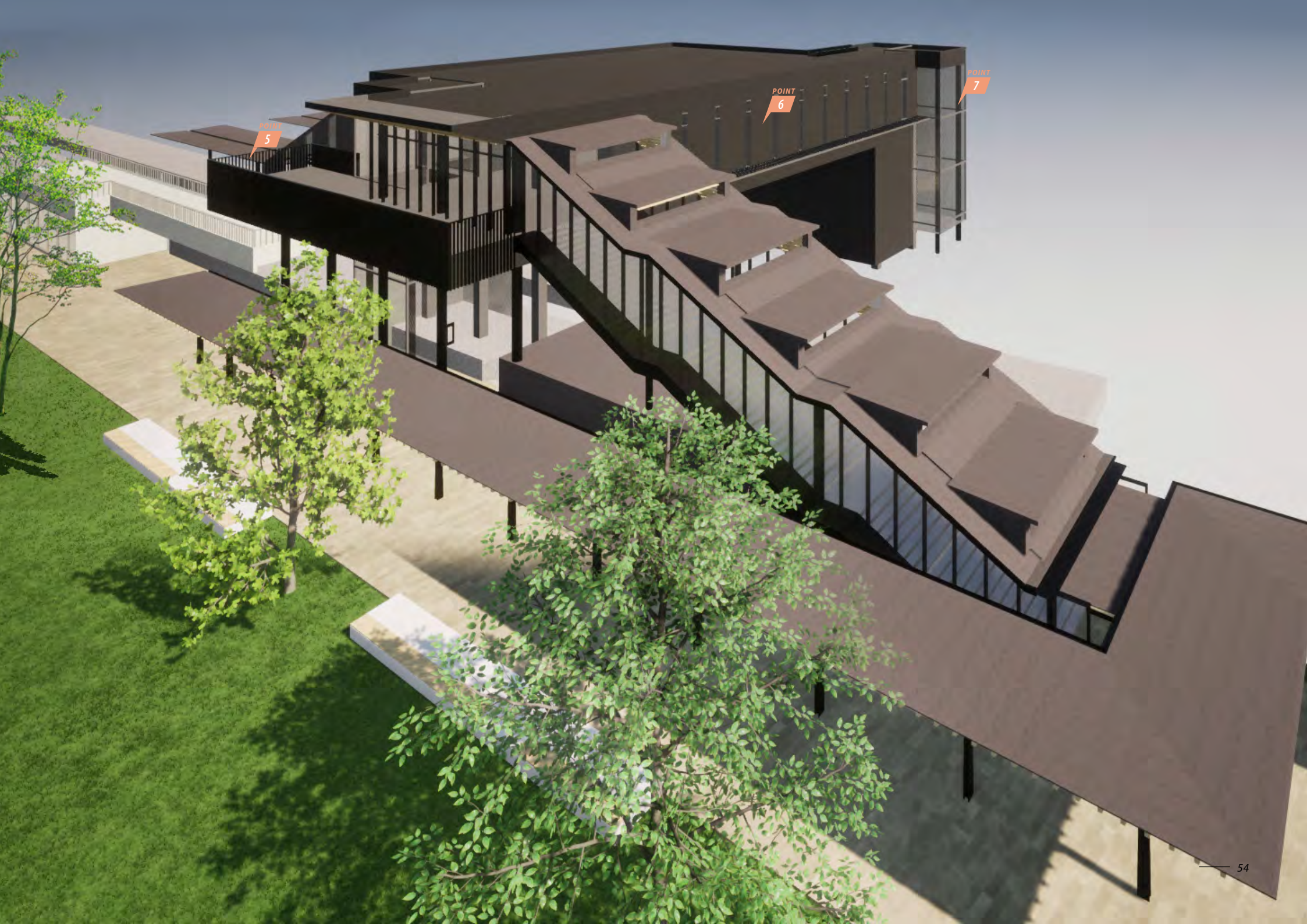
POINT 5 自由通路先端部付近から恵那山への眺望が確保できるよう、展望デッキの東側には屋根を付けないこととします。

POINT 6 跨線橋部は西日が厳しい場所であり、大きな開口部を設けず、スリット状の窓を配置します。壁面が大きくとれるため、市民ギャラリーなどの壁面利用を図ります。

POINT 7 南口のデッキはエレベーターを西側に配置し、恵那山方面の眺望や、地上ではゆとりのある歩行者動線の確保に努めます。



B-B断面図——1/200



3-10 エントランスロード (リニア岐阜県駅停車場線)

お出迎えのゲート

中央駅前広場から伸びるエントランスロードは、リニア岐阜駅を利用する人々を目的地へと送り出し、また、人々を出迎えるための場所でもあります。そのため、歩道の舗装、植栽、車止め、照明柱が一体となって、岐阜の東の玄関口としてふさわしい通りをデザインします。

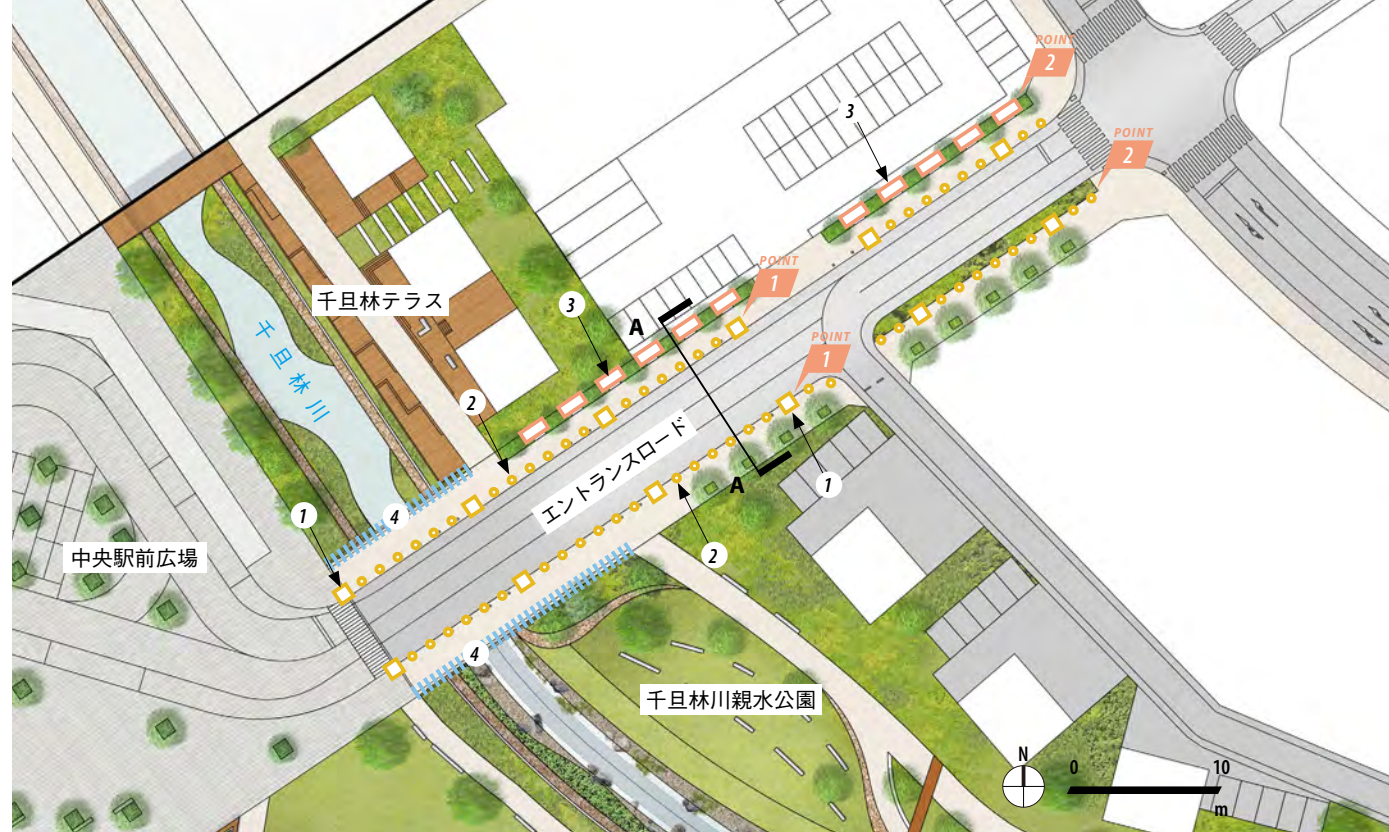


POINT
1

左右対称に配置された照明柱や植栽によって、ゲート性をつくります。

POINT
2

エントランスロードに配置される照明柱、車止め（足下灯）、ベンチなどのプロダクトには積極的に岐阜県産の素材を使用し、玄関口から岐阜県らしさを演出します。



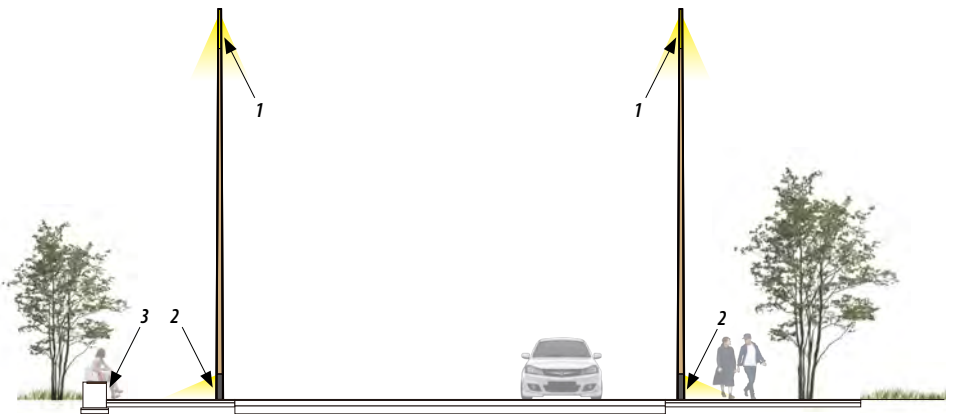
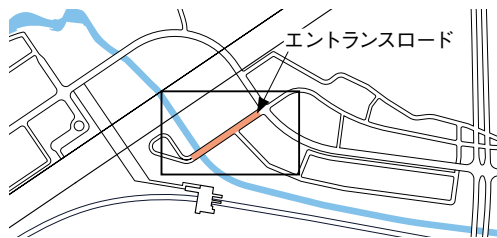
1ー 道路照明

3ー ベンチ

エントランスロード (停車場線) 平面図——1/500

2ー 車止め (足下灯)

4ー 高欄



1ー道路照明

2ー 車止め (足下灯)

3ー ベンチ

A-A 断面図——1/100

3-11 風景をつくるプロダクト

岐阜県の素材に触れるプロダクト

駅周辺を整備するにあたり、人々の居場所をつくり、岐阜らしさを演出するため、照明、ベンチ、柵など、さまざまなプロダクトがつくられますが、これらも舗装や建築と同様に、風景をかたちづくるプロダクトとして一体的に計画することで、駅前空間にデザインの一貫性をもたせ、この場所にしかない空間演出を行います。

駅前に設置されるベンチや照明などのプロダクトには、岐阜県各地で生産される木材、石材、鋳物、タイルなどを積極的に使用し、岐阜県一体となってリニア岐阜県駅を訪れる人々をお出迎えします。



1— 地元産の石材ベンチ

みち広場や千旦林川親水公園に置かれるベンチは、中津川市内でとれる蛭川石などの石材を使用します。

2— 縁台

中央駅前広場の中央に置かれる三角形の縁台は、普段はベンチとして利用されますが、イベント時にはステージや什器としても使うことができます。縁台の座面には、岐阜県産のタイルを使用します。



3— エントランスベンチ

エントランスロードに置かれるベンチは汎用性の高いシンプルなデザインとし、座面には岐阜県産の木材を使用することで、温かみと岐阜らしさを演出します。



5— 高欄

高欄は街道の風景をイメージした縦格子とします。小さなカウンターとしても利用できる木の手すりを設けることで、川の風景をより快適に楽しめるつくりとします。



4— 北口駅前広場ベンチ

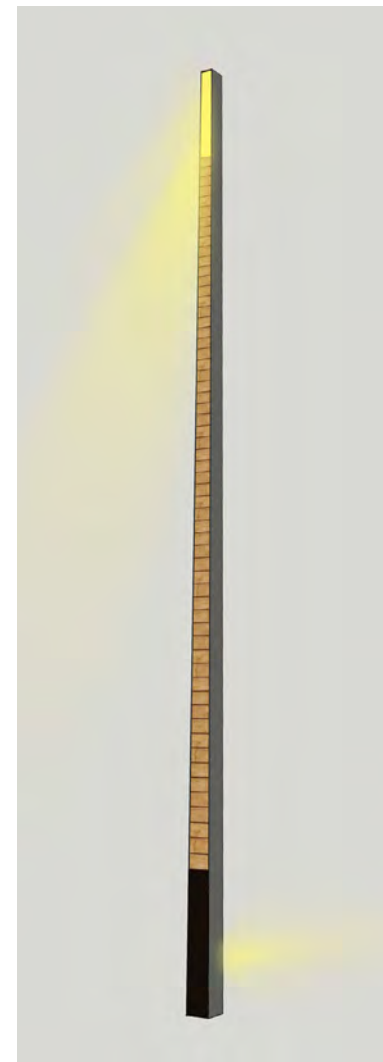
植栽枡を兼ねたベンチで、木陰の下でひと休みすることができます。座面には岐阜県産の木材を使用し、植栽との一体感をつくります。

7— 道路照明

エントランスロードに左右対称に配置され、お出迎え感を演出します。側面の一部に岐阜県産の木材を貼ることで、駅前広場のシェルターなどとの統一感を出します。

6— 車止め（足下灯）

車止めの機能だけでなく、歩行者のための足元灯としても機能します。素材は岐阜県産の鋳物を使用します。



3-11 風景をつくるプロダクト



風景を作るプロダクト全体配置図——1/2500

4

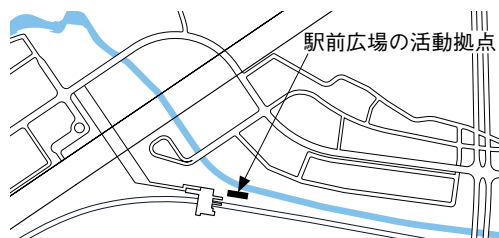
ソフトのデザイン

4-1 駅前広場の活動拠点

駅周辺の活動を支える拠点

豊かな自然と広さをもった駅前広場を積極的、かつ継続的に利用してもらえるよう、活動拠点となる場を設けます。広場で使える備品をストックできる倉庫、ステージやテラス、気軽に集まれる縁側で構成された駅前広場の活動拠点から、様々な活動が各広場へ広がっていきます。

また、公園空間の利用促進のためのカフェ機能やワークショップができるような拠点機能、防災用資材の備蓄機能などの可能性も合わせて検討しています。



広場の備品や防災用の資材をストック



気軽に集まれる縁側



公園使用促進のためのカフェ機能



ワークショップの拠点としても

4-2 今後の取り組み

未来のモビリティを見据える

AIやIoTなどに代表される技術の進化により、安全性や利便性、新しい様々なサービスなど、自動車のあり方には大きな変化が生じることが考えられます。今後、革新的な変化が予想されるモビリティ技術について、自動運転、シェアリングサービス、パーソナルモビリティなどに柔軟に対応できるよう、リニアの駅周辺整備については、自由でゆとりのある空間配置とするよう検討を行います。



中津川の将来をつくる会議を組織する

みち広場・駅前広場・かわまちづくりにより整備する親水広場・千旦林川沿いの河川空間などを日常的に活用して「遊ぶ」「楽しむ」ための空間の使い方などについて、市民を中心に会議を組織し、意見交換を行うことを検討します。また、リニア岐阜県駅周辺への出店に興味を持つ企業などの方々と会議を組織し、継続してにぎわいを創出し、管理運営することについての意見交換を行うとともに、今後の主体となり得る者を探すことを検討します。



誰にとってもわかりやすい情報提供

ハード・ソフト両面において、ユニバーサルデザインを念頭に置きながら、誰もが使いやすい駅周辺の施設整備を検討します。県内・市内の案内や観光情報などについて、DX（デジタルトランスフォーメーション）により、新しい情報技術を取り込み、様々な人たちがストレスなく情報を取り出すことができ、初めての来訪者にもわかりやすく使いやすい空間にできるよう、今後の設計や工事の段階で、積極的に新しい技術の導入を検討します。



持続可能な駅空間を目指す

持続可能な開発目標（SDGs）の取り組みの中で、リニアの駅周辺においても持続可能なまちづくりを進め、官民が連携した川や緑など環境面の対策や、安全安心に過ごせるよう維持管理面での取り組みを進めます。また、誰一人取り残さない、多様性を認める社会の創出の一環として、色々な人が駅周辺を気軽に利用し、楽しめるよう多様性を担保するとともに、様々な産業や観光業など駅周辺で働く地元の人の働きがい確保するなど、SDGsの観点に配慮した取り組みを進めます。



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

